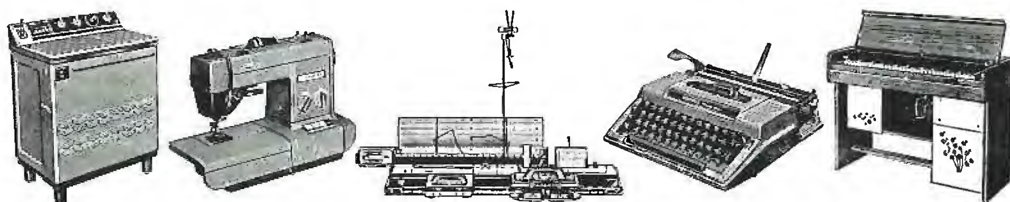


練習が技術をつちかい
技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする——それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから——。

BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社



陽春飾る高校選抜男女10代表

25日から名古屋で第2回大会開く

高校ハンドボール界春のビッグイベント・第2回全国高校選抜大会が、3月25日から27日までの3日間、名古屋市の愛知県体育館で行われる。

参加校は、全国9ブロックから推せんされた男女各9校に、開催県代表が加っての合計各10チーム。

昨年の第1回大会は、待望の〝センバツ〟誕生にもかかわらず、どこか手さぐりの状態であったが、今大会は、秋の新人戦（各県）から、はっきり目標に置くチームも多くなり、激戦が期待される。

参加校の前評判などを探ってみた。

〔男子〕昨夏のインターハイ優勝校・久留米工大附属が連続タイトルに挑む。

夏の自信が、新メンバーにもしみこんでいるだけに期待できる。

同じことは、長野国体1位の氷見にもいえる。スピード豊かな攻守を、新メンバーがそっくり受けついでおり、試合運びも巧く、惑星的存在だ。


全国高校選抜組み合せ

男子

修道（中国・広島）
○氷見（北信越・富山）
中京（開催地・愛知）
中大附（関東・東京）
聖光学院（東北・福島）
○久工大附（九州・福岡）
○新居浜工（四国・愛媛）
○県岐阜商（東海・岐阜）
御坊商工（近畿・和歌山）
○函館有斗（北海道）

女子

○徳山（中国・山口）
○涌谷（東北・宮城）
熊本市立（九州・熊本）
○名短大付（開催地・愛知）
夙川学院（近畿・兵庫）
昭和学院（関東・千葉）
釧路湖陵（北海道）
○新居浜商（四国・愛媛）
暁（東海・三重）
○小松市女（北信越・石川）

・○印は連続出場校

・男女とも3位決定戦は行わない

130cm台のパワーヒッターを揃えた中大附属は各校ベンチから注目されている。パワーに、都会的な巧技を加えてのバラエティは、ナンバーワンである。

夏のメンバーから卒業がGKだけという修道のまとまりも目立つ。

全員が個性的なテクニックを持ち、安定感では、参加校随一といわれる。

地元の名門・中京も、久々に全国上位の実力を備えての登場だ。

1回戦から、トップクラスとの連戦だが、優勝を目標にしたいとたくましい抱負だ。

古豪・新居浜工。全日本高校や国体につづいて、この大会でも、どうやら〝常連〟になりそう。それだけ、チーム造りの基盤がしっかりしているわけだろう。

ホームゾーンを代表する県岐阜商は、今年もダークホースだ。一つリズムをつかめば、一気に最上位へかけあがるチーム力を備えている。

函館有斗の闘志も侮れない。実力伯仲のブロックに入り、なんとかベストフォアにと、スピードプレーに、いっそうの磨きをかけて乗りこんで来る。

激戦の近畿で、一試合ごとに強さを増したという御坊商工。チームカラーこそ地味だが、攻守バランスのよさと粘りは、一本勝負にもってこい。

昨夏のインターハイ開催後、すっかりトップゾーンに定着した福島・聖光学院。攻防両面で〝速さ〟が発揮できれば、中大付戦は大いにもつれよう。

安定の連続出場組

〔女子〕この大会2連勝を狙う涌谷。チームワークでもぎとった〝初代タイトル〟だが、今年は、攻守にいっそう厚味と幅ができた。〝昨夏〟を落しているだけに懸命だ。

夏の女王・小松市女。長野国体も制して、乗りに乗る。この勝運と実力は、新メンバーになっても変わらず、全員平均した攻撃力は春にも冴えそうである。

徳山の評判も高い。パワーヒッターとテクニシャンが巧くかみ合っての多彩な展開は、新チームにしては抜きん出たものがある。二回戦の相手・涌谷とが大勝負。

新居浜商は、四国予選2試合で失点が僅かに1。守りの固さは相当なものだ。各チーム、攻撃力は波があるだけに、ディフェンスに自信をもてるのはこの時期貴重。

地元から連続の名短大付属は、昨年の気負いすぎを反省、じっくりチームを仕上げてきているだけに無気味だ。切れ味よい速攻が出れば、上位グループを食えよう。

初出場組のナンバーワンは昭和学院か。順当にいけば二回戦の相手が小松市女。シーズン初めながら好内容の激戦が待たれる。この難関を突破すれば優勝も、の声。

熊本市立は、激戦区を突破しての出場だけに、どこも一斉にマークだ。練習量も充分のようだし、伝統的な粘りが、この大会で発揮できればダークホース。

近畿を制した夙川学院は、お家芸の速攻が光る。夏の大会が地元での開催。目標は、あくまで「夏」ともみれるが、そのためにも、4強入りは果たしたいところ。

暁は選手層を誇る。しかも、レギュラー一人々々の持ち味が異るため、新チームにはめずらしいほど攻撃に幅がある。東海大会は守りの勝利といわれたのも好材料。

宿願の北海道制覇を果たした釧路湖陵は、その勢いをなんとか今大会へ持ちこみたい。夏は地理的ハンデが出るが、春の大会は絶好のチャンスだ。

【大会日程】▽第1日（3月25日）午前11時から男女1回戦4試合、午後1時10分から男女準々決勝＝この日に限りコート2面。

▽第2日（26日）午前10時から女子準決勝2試合、正午から男子準決勝2試合。

▽第3日（27日）午前10時、女子決勝、11時、男子決勝。

理事長に荒川清美氏を七選

日本協会は２月25日午前10時から東都渋谷の岸記念体育館で定例全国代議員会を開き，任期満了にともなう役員選出では，会長に斎藤英四郎氏（新日本製鉄社長）を再選，昭和54年度事業日程などを承認した。

引きつづいて同日午後から行われた新・全国理事会では，理事長に荒川清美氏（日体大教授）を七選，執行部の編成など，モスクワオリンピックを迎える昭和54，55年度全役員の決定をみた。

日本協会全国代議員会・理事会

定例代議員会は、24名の新代議員が出席（注・ほかに委任状24、会議成立）して行われた。

まず、注目の会長、副会長選出では、会長に斎藤英四郎氏の再選を異議なく承認した。

斎藤会長は、前期、田村正衛氏からバトンを受けついだばかり。新日本製鉄社長、明治44年11月生れ、東大出身。

副会長は、保坂周助、林達夫、徳永陸繁現職３氏の留任が満場一致で決まったあと、会長が多忙なかたのため、副会長を増員したらどうかとの提案があり、５月までに２名の新副会長を決めることに決まった。

また、監事は、松本重雄（教大出、元日本協会理事）、都野雄二（東大出、元東大監督）の両氏を新たに決定、近日中に、１名を追加する。

会長推せん理事は、事務当局から、定数（14名以内）いっぱいのリストが発表されたが、４名の新任者が加わり新鮮な印象を与えた。

また、この議題に関連して、荒川理事長は、「新年度から委員会制度を部制度に戻す」ことを明らかにして、了解を求めた。

日本体協などへの派遣人員については、日本体協理事、ＪＯＣ（日本オリンピック委員会）常任委員をつとめている荒川氏の再推せんで、まったく問題はなかった。

以上で、人事関係の協議が終了したが、小袋代議員から「ＩＨＦ理事・渡辺和美氏（東京協会長）と日本協会の関連」が質問され、荒川理事長は、本会顧問であると説明した。

渡辺氏は、一九七二年のＩＨＦ総会（ニュウルンベルグ）に、日本代表（当時日本協会副会長）として出席、同総会でのＩＨＦ規約改正にともなう初のアジア選手理事となり、七六年の改選で重任、来年７月の総会（モスクワ）前まで任期がある。

なお、日本協会顧問は浅野均一河島武四郎、内藤誉三郎（注、文相）、馬場太郎、平井富三郎、渡辺和美、鈴木達雄、田村正衛の各氏（＝順不同）、参与は、岩野次郎、浜田義明、池上金治、外山准二、阿部二郎、植村肇、森松雄の七氏（＝順不同）である。

国体に男子学生出場ＯＫ

つづいて54年度の事業計画、予算についての協議が行われ、予算については、すでに、昨秋11月26日の臨時代議員会（東京）で承認を受けており、この日は再説明。

それによると、収入予算は、53年度からの繰りこし七百万円を見込んで総額三九、一六〇、〇〇〇円。

支出は、セクション別にみると

総務　一三、〇二二、〇〇〇円
財務　　　　二九〇、〇〇〇円
編集　　八、一〇〇、〇〇〇円
普及指導二、四六〇、〇〇〇円
審判　　二、〇六〇、〇〇〇円
技術　　　　七四〇、〇〇〇円
強化　一二、四八八、〇〇〇円

の総額三九、一六〇、〇〇〇円。

ほぼ前年と同じスケールだが、強化費が、モスクワ前年にもかかわらず、53年度に比べて二百十万円減となっていることに、常松代議員から質問があったが、荒川理事長は、日本体協からの競技力向上費などが確定したうえで、補正したいと回答した。

一般議題では、懸案の国体成年男子への「全日本学連登録外の学生参加」が焦点となり、執行部案（競技委員会原案）は、「１県５名」とされていたが、協議の結果「１県３名」とすることでまとまった。

これにより、今秋の宮崎国体から成年の部には、男子は、全日本学連に登録していない者なら３名以内の学生が参加できる。

なお、成年女子は、53年度から「１県５名以内。うち全日本学連登録者は３名以内」という規定が施行されている。

国体の種別参加チーム数は、すでに54年度（宮崎）は、成長男子47、その他11に決まっており、55年度も成年女子47、その他11が内定されているが、成年だけのダイレクト参加は、54年度で打ち切るべきだ、との意見があり、次回までに、執行部が、新しい考えを示すことになった。

全日本総合選手権の出場枠は、この日の会議では、特に審議されなかった。

今冬12月の第31回大会（東京体育館）は、男子が24（日本リーグ8、全日本学生5、全日本実連、全日本教職員連各3、全日本自衛隊連、全国社会人東地区、同中地区、同西地区開催地各1）、女子が16（日本リーグ8、全日本実連全日本学連各3、全国社会人、開催地各1）と、前回の数字が無修正のまま適用されることになりそうだが、男子の日本リーグは、54年度から1部6、2部6となるため、2部からの出場を認めるか、など、問題は残っている。

強化関係では、全日本男子のＦＰに関健三（三陽商会）の追加が承認された。　午後1時25分閉会。

（定例全国代議員会出席者）大田（青森）、豊島（秋田）、角（富山）、渡辺（新潟）、中島（長野）桑名（栃木）、高橋（群馬）、五島（山形）、岡村（東京）、久保田（静岡）、幸村（愛知）、金子（埼玉）、深谷（千葉）、常松（兵庫）、永井（鳥取）、永井（岡山）、小袋（福岡）、和田（長崎）、甲斐（佐賀）、坂本（宮崎）、平仲（沖縄）、田中（全日本実連）、山田（全日本教職員連）、嶋田（全国高体連）

荒川氏を満場一致で推せん

会長推せん理事（14名以内、定数推せん）の決定をみた全国理事会は、全国代議員会に引きつづき2月25日午後2時から、岸記念体育会館で行われた。

新理事33名のうち、新任者が8名と、執行部マンネリ化から脱皮の期待がかかる〝布陣〟で、冒頭の理事長選出から、活発な意見の交換がみられた。

荒川体制が、すでに12年にわたっており、内外から、発想の転換を求める声もあがっているだけに昭和44、45年度（44年3月の理事会）以来、複数の理事長候補名があがるのではないかとも思われたが、結局「モスクワ・オリンピックを来年に控えて、一気の革新は望ましくない」「これまでの路線を急激に変える必要はない」といったニュアンスの意見が支配的となり、荒川清美氏（日体大OB）の留任を望む声が強く、満場一致で同氏の七選に落ち着いた。

推せんを受けた荒川氏は、いっそうの発展に努力することを約しながらも、「今期を最後の任期としたい」旨を発言、新施策とともに、〝後継者づくり〟が、新任期の一つの焦点として、浮かびあがることになった。

再び「部」システム採用

荒川理事長は、ただちに、常務理事陣の編成に取り組むと同時に新年度から、52、53年度に採っていた「委員会」システムを、再び「部」システムに戻して執行部を運営することの了解を求めた。

52・53年度、近い将来の財団法人化に備えて、全理事を各専門委員会に配置、各専門委員会の〝独立色〟を強めようと企ったものだが、試行期間がなく、いきなりの実施のため、各委員会と各担当理事に戸まどいがみられ、機関誌の大幅遅延など、必しも、狙いどおりの成果があがらなかった。

また、常務理事会を極度に縮少（理事長ほか5名）したことも現状掌握を不完全なものにしてしまっていた。

このため荒川理事長は、「委員会」構想を、前々期の「部」システムに置きかえて、再スタートを企ろうとしたもので、常務理事会も、理事長ほか9名に増員された。

しかし、審判と技術パートは、「部」として復活させず、前期の「競技委員会」の狙いを受けついで「競技部」内に包含させたまま将来への布石としているのが目立つ。

日本リーグ畑から西村氏

各専門部のリーダーとなる常務理事は、荒川理事長から9名が推せんされ、承認を得る形となった

いずれも、会長推せん理事なことが、大きな特色。

常務理事の担当（部長）は、総務・大野（東大OB）、競技・安藤（法大OB）、強化・渡辺（日体大OB）の4氏が留任したが、企画は北川（湧永薬品、早大出）、財務は西村（日体大OB）、が新任、勝氏勇退の普及指導には、前技術委員長の大西氏（東京教大OB）が廻った。

西村氏は、日本リーグ系から初めて日本協会執行部入りしたわけで、今回の会長推せん14氏のなかで、最も異彩を放つ人事である。

また、財団法人化への特別委員会には、前財務委員長の島田氏（慶大OB）が就いた。

充実の望まれている広報は、部長が理事長兼任のまま。新たに傘下に加えた機関誌編集委員会は、平岡氏（東京教大OB）が委員長として新任、常務理事となった。

競技部内の2委員長は、審判が岡前(日体大OB)、技術が近藤（芝浦工大OB）両氏。うけもつと発表された岡前氏は留任、近藤氏は新任である。

専門委員長は理事外でも

看板ともいうべき強化部は、前期までは、強化委の名称で極めて独立色の強い機関となっていたが再び、一つの部に戻った。

部長は、渡辺氏が留任となったのは当然で、モスクワ・オリンピックまで、あと五百余日、成果（予選突破）に期待がかかるが、前期まで、男子部門を担当していた幸田末之氏、女子部門の横地守吉氏が、理事リストからはずれたため、この会議時点では、この重要ポストの人選は行われず、強化部担当理事会（3月4日）に一任された。＝別掲

幸田氏は、前期は近畿ブロック選出理事として、執行部入りしていたが、同ブロックは、近畿六県の持ち廻りで理事を派遣するため幸田氏は今期は理事としての「資格」が無くなった。

横地氏は、全日本実連推せん理事を、勤務先（ブラザー工業）の事情で辞退したためで、荒川理事長は「委員長は理事でなくてもよい」として、幸田氏留任をにおわすと同時に、強化部に限らずこのポストは、専門部レベルでの検討でさしつかえないことを明きらかにした。

昭和54．55年度日本協会執行部

・会長	斎藤英四郎	（再）
・副会長	林　達夫	（再）
	徳永　陸繁	（再）
	保坂　周助	（再）
	5月までに	（新）
	人選。	（新）
・理事長	荒川　清美	（会長推・再）
・理事	未発表	（北海道）
	森　恭一	（東北・再）
	若山　博	（北信越・新）
	入江　暢一	（関東・再）
	伊藤　和夫	（東海・再）
	中井　泰彦	（近畿・新）
	柳井　文治	（中国・再）
	越智　武	（四国・再）
	藤田　八郎	（九州・再）
	山田　稔	（全日本実連・再）
	近藤　金博	（全日本実連・新）
	遠藤　健次	（全日本教職員連・再）
	高橋　健夫	（全日本教職員連・再）
	富永　勁	（全日本自衛隊連・再）
	古庄　昌雄	（全日本自衛隊連・再）
	中沢　重夫	（全日本学連・再）
	田中　秀夫	（全日本学連・再）
	清水　正	（全国高体連・再）
	三浦　公	（全国高体連・新）
	○安藤　純光	（会長推・再）
	○平岡　秀雄	（会長推・新）
	○北川　勇喜	（会長推・新）
	○西村　孝雄	（会長推・新）
	○大野　金一	（会長推・再）
	○大西　武三	（会長推・再）
	岡前　義春	（会長推・再）
	○境井　秀三	（会長推・再）
	○島田　清史	（会長推・再）
	高田日呂美	（会長推・再）
	○渡辺　慶寿	（会長推・再）
	山田　哲雄	（会長推・再）
	横地　正厚	（会長推・新）
・監事	松本　重雄	（新）
	都野　雄二	（新）

・○印は常務理事

11月、二つの全日本？

主要大会のスケジュールでは、なんといっても、今秋11月のモスクワ・オリンピックアジア予選が目立つ。

いまのところ、男女とも韓国での開催が有力といわれるが、IHF（国際ハンドボール連盟）からの公式通知は、届いていない。

同じ11月に、中国で第2回アジア選手権（男子のみ）が開かれることについての質問は各代議員、理事から出たが、日本が、AHF（アジア・ハンドボール連盟）加盟国であり、まして、第1回大会（52年4月・クウェート、本誌152号参照）の優勝国とあっては、棄権する理由もなく、事情説明にあたった荒川理事長のニュアンスでは「両大会（オリンピック予選、アジア選手権）に代表チームを送る」ことになりそうだ。

国際行事では、新年度早々、全日本男子の西ドイツ、オーストリアへの強化遠征（本誌8頁）と全日本学生とフランス男子ナショナル滞同の南太平洋遠征が明らかにされ、男女のジュニア世界選手権へのエントリーも報告された。

また、54年度は、日韓交流が三部門とも行われる年である。

全国中学校選抜に改称

国内行事では、全国中学生大会が、文部省の中学校選抜体育大会競技に加えられたため、大会名が「全国中学校選抜大会」に改められることになった。

全国中学生大会をそのまま存続させ、新たに全国中学校選抜大会を発足させるかについて、議論になるとも予想されたが、すんなり全国中学生大会を〝発展的解消〟させることで、まとまった。

日本リーグは、女子が8チーム1回総当り（これまでは2回総当り）、男子が6チーム2回総当り（これまでは8チーム）に改められ、オリンピック予選のため、10月末に、全日程を終了させる。

各チャンピオンシップは、全日本総合選手権が、年内開催に戻り全日本自衛隊選手権が、秋季に移された。同選手権は、これまで5～6月に開かれ、日本協会登録をめぐってのトラブルが多かったもの。

第3回を迎える全国高校選抜大会は、これまで2回は名古屋市で開かれていたが、初めて徳山市（山口）に持っていく予定。

国体成年男子に学生OK

国体については、54年度（宮崎）は、成年男子が全県ダイレクト参加になることが確定され、55年度（栃木）の成年女子ダイレクト参加も決定的だが、56年度以降のダイレクト参加種別は、改めて協議すべきだとの、代議員合同ようの意見が多く、場合によっては、55年度にも、一部修正を行うニュアンスで、新執行部に原案の提出を

昭和54年度日本協会主要大会日程

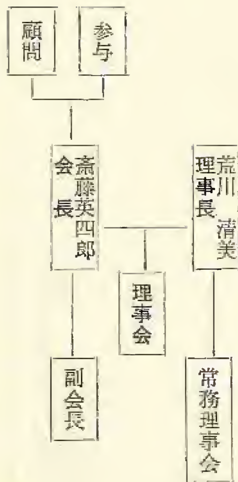
・全日本男子ヨーロッパ(西ドイツ・オーストリア)遠征	3月28日～4月19日（西ドイツ・オーストリア）
・全日本学生南太平洋遠征（フランス滞同）	4月4日～18日（ニューカレドニアほか）
・第20回全日本男子実業団選手権	5月17日～20日（名古屋市）
・第20回全日本女子実業団選手権	5月25日～27日（甲府市）
・第12回（女子第7回）日韓学生交流	6月5日～8日（仙台市ほか）
・第4回日本リーグ前期	6月23日～7月22日（全国各地）
・第30回全日本高校選手権	8月1日～7日（神戸市）
・第22回全日本教職員選手権	8月8日～12日（栃木市）
・第6回全国高専選手権	8月13日～14日（大阪市）
・第14回（女子第7回）日韓高校交流	8月16日～20日（韓国）
・第8回全国中学校選抜大会	8月21日～23日（東京都）
・第29回(女子第11回)全日本学生選抜東西対抗	9月15日（名古屋市）
・第11回全日本自衛隊選手権	9月中旬（場所未定）
・第4回日本リーグ後期	9月15日～10月28日（全国各地）
・第34回国体ハンドボール競技	10月14日～19日（宮崎市）
・第2回世界女子ジュニア選手権	10月13日～24日（ユーゴ）
・第2回世界男子ジュニア選手権	10月23日～11月2日（デンマークほか）
・第2回アジア男子選手権	11月1日～11日（中国）
・モスクワオリンピック男女アジア予選	11月24日～30日（韓国＝予定）
・第22回（女子第5回）全日本学生選手権	11月28日～12月2日（福岡市）
・第31回全日本総合選手権	12月12日～12月17日（東京体育館）
・第11回全国男子実業団トーナメント	55年2月9日～12日（愛媛県新居浜市）
・第3回全国高校選抜大会	55年3月26日～28日（徳山市）
・モスクワオリンピック「女子3大陸代表」決定戦	55年3月下旬（アフリカ）

「ハンドボール」

54年3月号(第172号)目次

【表紙写真】東ドイツ女子―全日本第1戦。東ドイツは世界の女王らしく、技と力を備えた大チームだった。
（2月10日、駒沢屋内球技場）
撮影・武者正三

昭和54，55年度日本協会執行部組織及び担当理事



		部長(及び委員長)	担当理事	分掌事項
総務部		大野金一	山田(哲)，高橋	庶務，地方協会，加盟団体との連絡。
企画部		北川勇喜	高田，越智，入江，田中	事業の企画立案，大会運営委員会の編成。
財務部		西村孝雄	中沢，中井	予算の作成，運営資金の調達。部内に「会計」を置き経理，決算を担当。
国際部		境井秀三	横地	ＩＨＦ，ＡＨＦなどとの連絡。海外との連絡。
広報部		広報部長 荒川理事長兼任	三浦	広報，宣伝，プレスとの連絡。
		機関誌編集委員長 平岡秀雄		機関誌の編集，刊行。
普及指導部		大西武三	伊藤，森，遠藤，若山	ハンドボールの普及，研修にともなう立案と実施
競技部	審判委員会	競技部長 安藤純光 審判委員長 岡前義春	藤田，清水	競技規則の研究，審判の審査，研修
	技術委員会	技術委員長 近藤金博	北海道選出理事	技術の研究，コーチの講習
強化部	コーチ群	強化部長 渡辺慶寿	・強化部担当理事 山田(稔)，柳井 古庄，富永	ナショナルチームの編成運行事務とその強化。
	総務群			ナショナルチームの諸資料整備作成と諸研究。
	トレーニングドクター群			
財団募金委員会（特設委員会）		島田清史		
海外駐在代表群		人選中		海外情報の収集，国際交流の交渉。

求めることになった。

このほか、国際交流として、9月にオーストリア男子ナショナルチーム（世界選手権Bグループ9位）と、同国女子1位の「ハイポ銀行ＨＣ」の来日交渉が進められていることが、明らかにされた。

午後5時40分散会。

女子強化委員長に柳井担当理事

日本協会強化部（旧・強化委）の新旧担当理事会が、3月4日東京で行われ、男子強化委員長に幸田末之氏の留任と、女子強化委員長に柳井文治氏の新任を決めた。

強化セクションの担当者は、一昨年の役員改選で、渡辺慶寿担当常務理事以下、モスクワ・オリンピックの終了までを任期とすることが、内々に申し合わされていたものだが、男子強化委員長の幸田氏は、選出母体の近畿ブロックが理事を傘下六県の輪番制を採っているため、新年度の理事名簿からはずれた。

全国理事会でも、この点が問題となったが、本誌3頁所報のとおり、「委員長」は理事以外でもかまわないという建前から、幸田氏は強化委員として残り、さらに、この日の会合で、委員長留任が決まったもの。

女子は、横地守吉氏が、勤務上の理由で、実連推せん理事を辞退したことで、完全に空席となった本教職員連盟推せんの強化委員をつとめていた柳井文治担当理事を新委員長に推すことが決まった。

なお、横地氏は、渡辺部長、柳井新委員長の要請で、当分の間、強化委員として残り、補佐役をつとめることになった。

このほか、ナショナルチームの事務手続きなどを円滑に運ぶため在京委員から総務担当者を選任することとなり、男子総務に山口毅氏、女子総務に坂理泰幸氏を決定

日本リーグへ5理事

日本協会は、2月25日の全国理事会で、日本リーグに派遣する5理事を次のように決め、発表した（日本リーグ新人事は、本誌9頁参照）

▽日本リーグ派遣理事、安藤純光、山田稔～以上再任～、横地正厚、岡前義春、北川勇喜～以上新任～

新たに佐野和夫氏も 審判審査委

日本協会は、このほど、審判審査委員会のメンバーを次のように決め、発表した。

佐藤敦氏逝去にともなう欠員1名は、4月中に人選される予定。

藤田八郎、入江暢一、片瀬喜代次、佐野和夫（新）

財団法人化へ本格的行動
目標額五千万円、特別委が発足

財団法人化を急ぐ日本協会は、昨秋の全国代議員会で、基金の募金方法について、基本方針を決定していたが、新年度から本格的な〝活動〟に入ることになり、島田清史常務理事を、特別委員会委員長に選出、目標額・五千万円を目指す。

募金の具体的な内訳けは、①47都道府県協会が各30万円、②加盟団体（全国連盟）が各30万円、③企業チームなどの協力二〜三千万円、④その他千万円とされている。

このうち、①と②は合計一五六〇万円で、53〜55年度の〝3年分割〟で集められるが、③は昨秋10月すでに、有力チームのオーナー会議が開かれ、事情説明が行われており、二千万円に近い額の〝確約〟がとれていると、伝えられる。

④は、理事など役員、メーカー筋、高校OB、大学OBといわれその方法は近日中に発表される。

大野金一・総務担当常務理事によれば「三千万円になれば、法人化の手続きをとる」が、日本体協加盟42団体のうち、これまでに33団体が、財団または社団法人となっており、法人化に踏み切っていないのは、日本ハンドボール協会など9団体だけ。

日本協会・荒川清美理事長の話　一応、3年計画で、56年度までに法人化したいと思っているが、すでに他団体のほとんどが成立させており、この任期中（54・55年度）になんとかこぎつけたい。

募金の大半は、企業やメーカーのご協力を受けることになるが、金額の多少ではなく、この四十年間、ハンドボール競技を愛好されたすべてのかたの結晶として、財団法人日本ハンドボール協会を設立させたい。

そのために、高校OB、大学OB会などからの〝募金〟を、どのようにするかを考えたい。

あらゆるハンドボール人の理解と協力を、改めてお願いするものだ。

日本協会登録5月31日が〆切り

日本協会は、昭和54年度の登録について、このほど47都道府県協会へ所定手続きを依頼した。

それによると、54年度の日本協会登録は、例年どおり、5月31日を〆切日に、各都道府県協会を通じて行なわれねばならず、その登録料などは、別表のとおりである。

国体は、5月31日以降の申しこみでも参加することができるが、その場合、成年男女は、「一時登録」として1チーム五千円及び個人登録料一名五百円を納入することになっている。

少年男女については、申しこみ書提出以前に、1チーム五百円を払いこめばよい。（個人登録料はなし）。

加盟金は、登録百チーム以上の都道府県協会は年間十万円、それ以外は五万円、また、五つの加盟団体（全国連盟）も各五万円となっている。

これらの料金は、いずれも、昨秋の全国代議員会で議決された。

昭和54年度日本協会登録料など（単位円）

種別	チーム登録料	個人登録料	オリンピック基金	機関誌購読料
高校高専	一、五〇〇	なし	三〇〇	三、三〇〇
学生	五、〇〇〇	なし	五〇〇	三、三〇〇
一般A	五、〇〇〇	一人 五〇〇	五〇〇	三、三〇〇
一般B	一、〇〇〇	一人 二〇〇	三〇〇	三、三〇〇
少年（国体用特別編成）	五〇〇	なし	なし	なし

（注）一般A、Bの個人追加登録料はAが一人八〇〇円、Bが一人五〇〇円。

なお、毎年、登録〆切日との関係で摩さつをおこしている全日本自衛隊選手権は、54年度は9月開催に内定しており、混乱はなくなりそう。全日本自衛隊選手権には男女とも5月31日までに正式登録したチーム以外は参加できない。

小松市女に日本スポーツ賞

読売新聞社制定の「日本スポーツ賞」表彰式が、1月24日東京で行われ、ハンドボール部門の小松市立女子高（石川）も、記念トロフィーを受けた。

同校は、今年度、全日本高校選手権、国体少年女子の部に優勝、〝二冠〟を獲得、日本協会が推せんしていた。高校女子チームがこの賞を受けるのは、29年の寝屋川（大阪）、38年の徳山（山口）、43年の菊池農（熊本）につぐもの。

高体連部長に嶋田新太郎氏新任
日本リーグ委員長は安藤純光氏

徳永陸繁氏が第一線勇退

日本ハンドボール界のパイオニアの一人、徳永陸繁氏（日体大ＯＢ）が、このほど全国高体連ハンドボール部長、日本リーグ運営委員長の要職から勇退された。

両機関では、それぞれの全国会議で、後任について協議、全国高体連は、新部長に嶋田新太郎氏（日体大ＯＢ）を、日本リーグは、新運営委員長に安藤純光氏（法大ＯＢ）を決め発表した。

なお、徳永氏は、本誌2頁所報のとおり、日本協会副会長の推せんは、受けられている。

徳永氏の勇退は、高校教諭としての定年退職にともない、これを機にハンドボール界の両ポストも後進に譲ろうとされたもので、その意志は固かった。

全国高体連ハンドボール部では2月4日の全国委員会で、徳永氏の辞意を受けるとともに、同部顧問に推たいした。

後任については、3副部長のなかから、嶋田氏を推す空気が強く満場一致で、同氏を第5代部長に選任した。

同時に、副部長、常任委員など新年度（54・55年度）役員を次のように決めた。

▽副部長　清水正(東地区・山梨)伊藤和夫(中地区・愛知)、中西敬一（西地区・福岡）▽常任委員、石切山稔治(北海道)、勝山宏（東北・宮城）、三浦公(関東・神奈川)金原至(北信越・富山)、稲石三二(東海・愛知)、北岡大覚（近畿・大阪）、荒谷拓三（中国・広島）、長尾輝夫(四国・徳島)、日野博（九州・福岡）～以上ブロック選出～永井勝雄(東京)、清水剛(山梨)大塚文雄(東京)、千野恒夫(山梨)～以上部長推せん～▽会計監査平田幸男(広島)、佐分正典（神奈川）。

一方、日本リーグ運営委員会は任期満了にともなう役員改選を3月11日の同委で行ない、徳永前委員長のアシスト役をつとめてきた安藤純光氏（日本協会選出委員）が、第2代委員長となった。

このほか、加盟チーム選出、日本協会選出委員に大幅な変動があり、首脳スタッフは、次のような編成となった。

▽副委員長、総務・企画・広報担当＝横地正厚(日本協会選出)、二部リーグ・財務担当＝山田稔（日本協会選出）、表彰・記録・審判担当＝岡前義春（日本協会選出）▽常任運営委員、砂原睦雄（立石電機）、陶山捷一（三陽商会）、西村孝雄(湧永薬品)、荒井正人（大崎電気）、西村亮治(大同特殊鋼)、片倉和雄(日本ビクター)、北川勇喜（日本協会選出）。

パイオニア徳永氏の勇退と新リーダーへの期待

□…徳永陸繁氏が、ついに第一線を退かれた。

日本ハンドボール界の草分け時代から今日まで、実に42年。ハンドボール一筋に生きて来られた同氏の勇退は、惜しみてもあまりある。

スタートは昭和12年だったと聞く。当時は、まだ海のものとも、山のものとも判らなかったハンドボールに、情熱を注がれた。戦前の地方講習会の記録をみると、講師、指導者に必ず、徳永氏の名を見つけることができる。

昭和25年以降は「高体連の徳永」として、自他ともに許す存在となる。さらに、51年、日本リーグが発足すると、その初代運営委員長に推された。

『パイオニアとしての宿命が私にはあるのかもしれない』――こういって、陽やけした顔をほころばせたものだ。

〝開拓の苦労〟というのは、なみたいていのことではない。徳永氏は、その苦労を、42年間つづけたといえる。

日本協会は、同氏のこのキャリアを、今後は〈副会長一本〉にしぼって活かしていただくという。

その意味では、まだまだ現役。送別の辞より、今はただただ感謝のことばをお送りするばかりだ。

□…ところで、全国高体連、日本リーグとも、だいじな時期に、リーダーの交替をみた。

学校教育としての城の中で伝統的な活動をつづける全国高体連に対して、競技団体の動きは、このところ激しさを加える一方だ。

記者個人の考えからすれば、高校体育連盟が、スポーツ団体のなかに居るのは、だんだん難しくなるように思える。

その流れのなかで、嶋田新部長が、高校体育と競技スポーツをどう〝併立〟させていくか。

去年から始った高校選抜大会に、どう対処していくかは、多いに注目される。

□…日本リーグの前途も課題が山積している。

これまでの3年間は、ともかくも「日本リーグを開いている」ことでよかった。

今後は、日本リーグに強烈な個性を植えつけねばならぬ。大仕事だ。

日本リーグが日本協会の事業のなかで、どんな位置にあるのかもいぜん不明確。

安藤新委員長は、西ドイツ留学の経験をもち、「西ドイツリーグ（ブンデス・リガ）」の盛況と成功をまのあたりにしている。

西ドイツ協会におけるブンデスリガの位置は、実にはっきりしたものだ。西ドイツ協会にとって唯一の看板事業であり、リーグ優勝が、即その年のチャンピオンになる。

日本リーグは、いまのところ単に日本リーグでしかなく、経費はすべて加盟チーム負担という〝大きな冒険〟をしながら進んでいる。

加盟チームの忍耐にも、当然、限界はあろうから、早いうちに、日本リーグは、将来の方向を定めておく必要がある。安藤氏の、加盟チームに対する舵とりが、一つの焦点になろう。

（杉山）

「アジア代表」好位置につく
モスクワ五輪男子予選組み合せ

IHF（国際ハンドボール連盟）技術委員会は、3月4日バルセロナ（スペイン）で、来年のモスクワ・オリンピック男子予選リーグ2組の組み合わせを行ない、発表した。

参加12カ国のうち、9カ国がすでに決まり、あとはアジア大陸、アメリカ大陸、アフリカ大陸代表の決定を待つだけである。

アジア大陸予選は、日本などが参加して今秋11月、韓国で行われる予定。

（モスクワ・オリンピック男子予選リーグ・A組）ソ連（開催国、世界2位）、東ドイツ（世界3位）、ポーランド（世界5位）、ルーマニア（世界7位）、スイス（世界Bグループ2位）、アメリカ大陸代表。

（同B組）西ドイツ（世界1位）、デンマーク（世界4位）、ユーゴ（世界6位）、スペイン（世界Bグループ1位）、アジア大陸代表、アフリカ大陸代表。

○…組み分けは、昨年の第9回世界選手権Aグループの順位をベースにして行われ、ソ連を含む7強の割り振りは、まずまず。

注目されたのは、3大陸の代表がどのように散らばるか、だったが、アジア代表は、極めて「好位置についた」というのが、率直な印象である。

今秋の予選を前に、アジア代表を日本と決めこむのは、いささか早計だが、仮にその希望が成った場合、アフリカ大陸代表には、まず絶対といってよい有利さがありスペインとも互角あるいは優勢、この2勝があれば、順当ならB組4位で、A組4位（ポーランドまたはルーマニア）と「7・8位決定戦」を戦かう。つまり、悲願のベストエイトが成るわけだ。

さらに、西ドイツ、デンマーク、ユーゴのうち、世界チャンピオン西ドイツは別格としても、あとの二国は、東ドイツやポーランドなどと比べたら、はるかに、戦い易い相手。どちらか一つを食えば「6位以内」さえ望める。ラッキーなくじ運といえよう。

こうなったら、是が非とも、アジア大陸代表権を、手にしなければならない。

世界男子Bグループ
スペイン優勝、スイスも五輪へ

第2回世界男子選手権Bグループは、2月22日から3月3日までスペインのマドリッド、バルセロナなどに、ヨーロッパの12カ国が集まり行われ、地元スペインが初優勝を飾るとともに、2位のスイスとともに、モスクワ・オリンピックヨーロッパ代表権を獲得、有力とみられた東欧勢を切り落とすという大波乱の大会となった。

大会は、参加12カ国を4組に分け、各組上位2国が、さらに2組に分かれて準決勝リーグ、その同位者によって1～8位を争うというシステムだったが、各国の目標は、優勝よりも、二つのオリンピック代表権――つまり、準決勝リーグで1位となることだった。

準決勝リーグへつながる予選リーグから、エキサイトした試合の連続となり、B組でスイスがハンガリーを破る大番狂せのあと、チェコもアイスランド戦を引き分けに持ちこまれた。

準決勝リーグに進んで、白熱の度は、いっそう高まり、特に1組はスイスがブルガリアに不覚をとって、4チームがいずれも勝ち点2で並ぶという有さま。第2日、スイスが、前回の覇者スウェーデンの猛反撃を振り切って、一九三六年以来のオリンピック出場となった。

一方の2組は、スペインが予選リーグからの好調を持ちこみ、総てを第2日のチェコ戦にかけ、残り10分18－18から一気に勝利点をつみ重ねて、五千の観衆が狂喜するなかで、オリンピック初出場を決めた。

最終日のBグループ決勝は、七千近いファンの中でスペインが逆転勝ち、初優勝した。

それにしても、地元スペインの闘志、昨春以来、共産圏顔負けの強化を企ったスイスの成長は驚異的。と同時に、絶対といわれた有利を落したハンガリー、チェコの落たんぶりは大きく、また、名門スウェーデンの低迷も、コートサイドの話題となった。

9位以下では、スイスを1点差に追いこんだフランスが、それ以後すっかり元気をなくし最下位、アジアから移り、Cグループで健闘していたイスラエルも、まだ、このクラスでは荷が重く、かつての日本の好敵手ノルウェーも精彩を欠いた。

今秋来日を希望しているオーストリアは9位リーグでは、比較的好調だった。

▽予選リーグ・A組

スウェーデン 20（13－11、7－6）17 ノルウェー
ブルガリア 18（9－9、9－6）15 ノルウェー
スウェーデン 16（7－5、9－10）15 ブルガリア

（順位）①スウェーデン②ブルガリア～以上準決勝リーグへ～③ノルウェー

▽同B組

スイス 19（12－9、7－8）17 ハンガリー
スイス 17（7－6、10－10）16 フランス
ハンガリー 31（15－7、16－7）14 フランス

（順位）①スイス②ハンガリー～以上準決勝リーグへ～③フランス

▽同C組

スペイン 23（13－6、10－5）11 オーストリア
オーストリア 18（8－11、10－7）18 オランダ
スペイン 19（9－7、10－7）14 オランダ

（順位）①スペイン②オランダ～以上準決勝リーグへ～③オーストリア

▽同D組

チェコ 23（6－4、17－11）15 イスラエル
イスラエル 21（11－10、10－11）21 アイスランド

チェコ 12（5―7 7―5）12 アイスランド

〔順位〕①チェコ②アイスランド～以上準決勝リーグへ～③イスラエル

▽9～12位決定リーグ

ノルウェー 17（8―8 9―8）16 フランス

オーストリア 22（14―12 8―6）18 イスラエル

イスラエル 25（10―11 15―11）22 フランス

オーストリア 16（6―6 10―8）14 ノルウェー

フランス 21（10―10 11―10）20 オーストリア

ノルウェー 24（11―12 13―12）24 イスラエル

〔順位〕⑨オーストリア2勝1敗⑩イスラエル1勝1分1敗（得失点差1）⑪ノルウェー1勝1分1敗（マイナス）⑫フランス1勝2敗

ブルガリア、スイス破る

▽準決勝リーグ1組

ブルガリア 19（8―10 11―5）15 スイス

ハンガリー 28（15―12 13―11）23 スウェーデン

スイス 21（11―12 10―7）19 スウェーデン

ハンガリー 29（18―12 11―11）23 ブルガリア

スイス×ハンガリー、スウェーデン×ブルガリアは予選リーグの記録を適用。

〔順位〕①スイス2勝1敗②ハンガリー2勝1敗～スイス×ハンガリー戦の勝者が上位③スウェーデン1勝2敗④ブルガリア1勝2敗～スウェーデン×ブルガリア戦の勝者が上位

▽同2組

スペイン 19（10―5 9―10）15 アイスランド

チェコ 23（13―10 10―4）14 オランダ

スペイン 23（12―10 11―10）20 チェコ

アイスランド 28（17―9 11―5）14 オランダ

スペイン×オランダ、チェコ×アイスランドは予選リーグの記録を適用。

〔順位〕①スペイン3戦全勝②アイスランド2勝1敗（得失点差10）③チェコ2勝1敗（6）④オランダ3敗。（注）アイスランド×チェコは引き分けのため、得失点差適用

▽7・8位決定戦

オランダ 24（11―10 13―12）22 ブルガリア

▽5・6位決定戦

チェコ 32（17―15 15―11）26 スウェーデン

▽3・4位決定戦

ハンガリー 32（15―10 17―8）18 アイスランド

▽Bグループ決勝戦

スペイン 24（15―8 9―10）18 スイス

〔個人得点〕①コントラ（ハンガリー）36②シュルク（チェコ）32③ツーリング（スイス）29④ジグルドソン（アイスランド）28⑤ボデンスキー（ブルガリア）26。

〝東欧時代〟から〝群雄乱立〟へ移行?

○…世界男子Bグループでスペインが優勝、スイスが2位に入ったという外電は、昨年2月のAグループ（ワールドチャンピオンシップ）で、無名の若手で固めた西ドイツがソ連を破り優勝したというニュースよりも、はるかに驚ろかされるものであった。

今回のBグループは、単にグループ優勝を争うというだけではなく、上位2者に、モスクワ・オリンピックへのパスポートが渡されるという大きな意味があったからだ。

○…一九六〇年代後半から、国際ハンドボール界は、いわゆる〝東欧時代〟に入った。

全体主義国家のスポーツに対する、というよりハンドボールに対する力の入れかたは、すさまじいものがあった。

ワールドタイトル、オリンピックタイトルは、男女とも、完全に東欧勢の支配下におかれ、西ドイツを筆頭とする中欧勢（旧・十一人制勢力）、スウェーデン、デンマークを中心とする北欧勢の両伝統ゾーンは、下位に追いやられた。

○…東欧勢の築いた堅塁は、難攻不落と誰もがみた。

昨春の世界選手権で、西ドイツが、東欧各国をなぎ倒して36年ぶりに世界の王座へ復活したことでさえ、一つのアクシデントにすぎぬと評した専門家がいる。

来年のモスクワも、当然、東欧の争いと予想された。ヨーロッパからの九つの代表の座は東欧七に西ドイツ、デンマークとみるのが＜常識＞だったのだ。

○…それが、今回のBグループで崩された。モスクワのヨーロッパ代表分布は東欧5、西・中・北欧4と拮抗したのである。

それも、実績のあるスウェーデンやアイスランドがカムバックしたというのではない。

スペイン、スイスという1年前には、ほとんど問題にされていなかった国が、堂々と東欧の強豪を押し切って勝ちあがったのだ。

スイスなどは、つい4カ月前はCグループに所属（本誌170号参照）していたのである。

○…これらの国は、実に用意周倒に、オリンピック策戦を採った。

そのためには、モントリオールも捨てた。しかし、一九八〇年のオリンピックには必ず出よう――その心意気が、目先の勝利だけにとらわれず、国内の有能な若手をじっくりと育てさせたのだ。

そして、Bグループ1年前、一気に〝頂上策戦〟に出た。

スイスは、昨年2月以降、1年間に32公式国際試合というスケジュールを発表し、スペインは、あらゆる条件を呑んでBグループ開催を引きうけた。

それは、かつて、東欧勢の採ったやりかたでもある。

○…ところで、今回のハンガリー、チェコの不覚は、〝東欧退潮〟につながるのではないか、という声があるのは、注目される。

たしかに、ルーマニアに昔日の思影がなく、ソ連も若手に目星しい選手がいない。ユーゴも一時の勢いを欠く。

しかし、ハンガリー、チェコもこのままでは黙っていまい。むしろブルガリアあたりの成長を考えると、東欧×他ゾーンの対立が、ますます深まり、ヨーロッパは群雄乱立時代を迎える公算が強い。

スペイン、スイスの投じた一石は、世界ハンドボール史に、一つの大きな節目（ふしめ）をつける〝歴史的〟なものになることが考えられる。

一九八〇年代の国際ハンドボール界は、一瞬たりとも目のはなせぬ波乱万丈の展開になりそうである。

（杉山 茂）

全日本、期待大きい強化ツアーへ

西ドイツ、オーストリアを転戦

新生・全日本男子ナショナルチームが、世界の王座につく西ドイツへ強化遠征する。

日本協会は、このほど、モスクワオリンピックへの強化策として、男子ナショナルチームを、3月28日から4月中旬まで、西ドイツ、オーストリアへ派遣することを決めた。

西ドイツ（3月30日〜4月9日）では、世界チャンピオンの同国ナショナルとの対戦のほか、11日間8試合、オーストリア（4月10〜17日）では「ウイーン国際」に出場の予定。

モントリオール、世界選手権後それまでの主力選手が、次々に〝引退〟、顔ぶれをガラリと変えた新・全日本にとって、モスクワ予選を8カ月後に控えたこの時期にヨーロッパ遠征のチャンスをつかんだのは、大きい。

国内での強化合宿は、昨秋以降すでに4回にわたっているが、竹野監督の意向で「基本技と精神力の養成」が繰り返され、チームとしての〝戦力〟〝国際キャリア〟になると、ほとんど未知数といってよい。

西ドイツ側の用意したスケジュールは、30日ヴッパータールでのナショナル（世界チャンピオンチーム）戦を第1戦に、8日までトップクラスとの予定がビッシリ。

しかも、そのあと、オーストリア協会が、ウイーンでの三国対抗（出場国は本誌〆切りまでに未定）への出場を誘ってくれたのだから申し分ない強化ツアーになる。

男子の場合、女子に比べて、モスクワ予選でのプレッシャーはない、というのが、大方のみかたである。

しかし、エントリーを予想されている韓国、クウェート、サウジアラビアなどの実力は、けして軽くみてはならない。まして、日本はモントリオール代表チームから穂積（湧永）、蒲生（大同）を残すだけ、キャリアという点では、各国との差はあまり無いとしなければならない。

今回の遠征は、モスクワ行きの一つのポイントともなるものだ。

FP転向の斉藤（将）に注目

発表された全日本男子は、昨秋11月承認をうけた「モスクワオリンピック候補選手」13名の中から須波（GK、筑波大）を除く12名と、Bチーム扱いになっていた山本（湧永）、岡部（GK、大崎）を新たにナショナルへ引き上げ、さらに2月25日の全国代議員会で、関（三陽）の追加があり、今回の15名が出揃った。

平均身長は182cmと、昨年の世界選手権代表とほとんど変わらず、モントリオール代表に比べると2cm近く伸びている。

特に、ディフェンスプレイヤーといわれる中本（大同）、斉藤（将）志賀（大体大）らの大きさは、練習を見ていても壮観である。

斉藤（将）は、日体大時代はGKで、48年8月ナショナル入り。ところが、強化合宿のたびに、コーチングスタッフは、彼のもつFPとしてのセンスに惚れこみ、転向を企り、昨年のスラビア・プラハ（チェコ）戦で〝試運転〟。正式に、FPでの起用が決まったものである。

将来性豊かなGK陣

GK陣も、初顔が二人。本田（大阪イーグルス、現コーチ）、柴田（本田技）と二人の名手がつづけて退き、福井（湧永）一人になったところへ、大型な二人が加わった。

岡部（大崎）は明大時代から、スケールの大きさに定評があり、井藤（日体大）は、下関中央工時代に一部で、ナショナルに加えてはといわれたほどの逸材。

本田コーチは、この三人を徹底的に鍛え、三人を同じレベルに並べたいとしている。

GKに限らず、いまや、国際舞台は、レギュラー7人で戦かう時代ではなく12人、あるいはフルエントリーでの勝負だ。

局面に応じての選手の使い分けが、試合の行方を決める大きなカギだけに、コーチングスタッフも全日本を一日も早く、そうしたヨーロッパレベルのチーム力に引き上げることを目指している。

西ドイツでの日程　▽3月30日、対西ドイツナショナル▽4月1日、対西ドイツジュニアナショナル▽3日　同▽4日　対J・ゲンズーゲン（全国リーグ13位）▽5日　対TV・フッテンベルグ（9位）▽7日　対TV・アンゲルムント（2部リーグ西ゾーン北地区6位）▽8日　対TV・グラムブケ（全国リーグ10位）▽9日　対GW・ダンケルセン（5位）

全日本・強化遠征メンバー

・団　長　荒川　清美（日本協会理事長）
・監　督　竹野　奉昭（日本協会強化委員）
・コーチ　東　　嘉伸（日本協会強化委員）
・アシスタントコーチ　本田　洋（日本協会強化委員）
　　　　　　　　　　　木野　実（日本協会強化委員）

			身長	体重	
・GK					
福井　秀人	(27才	・涌永薬品)	180cm	75kg	14試合（1点）
岡部　　大	(24	・大崎電気)	182	74	初
井藤　英忠	(20	・日体大)	184	70	初
・FP					
津川　　昭	(27才	・湧永薬品)	180	77	19試合（41点）
穂積　豊彦	(26	・涌永薬品)	180	78	12（7）
山本　伸二	(25	・湧永薬品)	176	70	初
池ノ上孝司	(23	・湧永薬品)	185	72	12（16）
生駒　靖夫	(23	・湧永薬品)	184	83	初
蒲生　晴明	(24	・大同特殊鋼)	192	90	56（201）
柳川　　実	(25	・大同特殊鋼)	175	73	36（54）
中本　満明	(24	・大同特殊鋼)	184	81	22（7）
斉藤　幸司	(25	・大崎電気)	174	80	24（51）
関　　健三	(24	・三陽商会)	180	76	初
斉藤将一郎	(25	・湧沢ク)	187	89	13＝GK(0)
志賀　良弘	(22	・大阪体大)	187	90	12（7）

・右欄は公式国際試合出場回数（　）内は同得点

パルパル エブリボディ。



5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

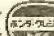
パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル ――― 標準現金価格 ¥59,800
クイックスタート、とってもべんり。
ロードパルL ――― 標準現金価格 ¥64,800
乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ ――― 標準現金価格 ¥75,000
しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー ――― 標準現金価格 ¥79,000
ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン ――― 標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう HONDA

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。



わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

世界ジュニア（今秋）の組み合せ決まる

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）は、今秋行われる第二回世界ジュニア選手権の予選リーグ組み分けを発表した。

10月23日から11月2日までデンマークとスウェーデンで行われる男子は日本など24カ国がエントリー。

6カ国づつ4組の予選リーグのあと、各組上位2カ国が準決勝リーグへ進み、そのあと、各組同位同士で1～8位を決定する。

日本とともにサウジアラビア、台湾のアジア勢が参加しているのが、注目される。日本などのB組はデンマークが会場地。

また、10月13日から24日までユーゴで行われる女子は日本など13カ国が参加を申しこんだ。

各国とも、世界選手権、オリンピックのローテーションが年ごととなり、戦力の厚味が順位に反映する決め手の一つになりつつあるため、ジュニアへの関心が高まり、男女とも前回を上廻るエントリーとなった。

しかし、ルーマニア、チェコら、かつての王国が男女とも棄権し、ポーランドは男子だけ出場するなど、微妙な動きもある。

日本協会は、4月早々、ジュニア対策を本格化することになっているが、いまのところ白紙に近い状態。

日本リーグ、学生リーグ（各地）、国体との日程のからみも問題となりそう。

参加資格は、男子が昭和三十三年以降生まれ、女子が三十四年以降生まれとなっている。

○…男　子…○

▽A組　ユーゴ、ポーランド、東ドイツ、ノルウェー、イタリア、台湾

▽B組　日本、ハンガリー、デンマーク、フランス、ルクセンブルグ、フインランド、

▽C組　ソ連、西ドイツ、オランダ、アイスランド、サウジアラビア、オーストリア

▽D組　スペイン、スウェーデン、スイス、イスラエル、ベルギー、アメリカ

○…女　子…○

▽A組　日本、ハンガリー、西ドイツ、ソ連

▽B組　ユーゴ、ノルウェー、フランス、オーストリア、イタリア

▽C組　東ドイツ、オランダ、デンマーク、アメリカ

全日本学生選抜軍
フランスと南太平洋へ

全日本学連は、フランス男子ナショナルチームとの帯同によって行なう、南太平洋諸島への遠征メンバー（役員3、選手15）を「全日本学生選抜軍」として、次のように決め、発表した。

全日本学生選抜軍は、4月3日成田国際空港を出発、7日から14日まで、フランス男子ナショナル（世界選手権Bグループ12位）と4試合を行うが、試合地はニューカレドニア島のヌーメア（4月7 9日）、ニューヘブリデス島のポートビラ（12日）、仏領ポリネシアのパペート（14日）と、いずれも南太平洋に浮かぶフランスの海外領土。

この企画ははじめ、日本協会へフランス、日本両男子ナショナルによるオーストラリア遠征という形で持ちこまれ、日本協会も承諾していたが、そのあと、オーストラリア転戦が不可能となり、南太平洋諸島に変更となった。

日本協会も、この時期、第2回アジア選手権が予定されたことや（注・今秋11月に開催）、西ドイツ遠征などが計画されたため、ナショナルチームの派遣を取り止めて、全日本学連へ、事業のすべてを移管した。

全日本学連では、受諾の意向だったが、フランス側が、フランススポーツ省の海外普及事業の一つとして行うことから、日本もナショナルチームとするよう要望、いちおうは、白紙に戻された。

しかし、あくまでこの事業をと意気ごむフランス協会は、日本の「学生ナショナル」を了承、実現へこぎつけた。

全日本学生選抜軍は、各地学連からノミネートされた選手によるセレクションの結果で選ばれたもの。一昨年の世界学生選手権以来の編成である。

○…全日本学生選抜軍遠征メンバー…○

▽団長　藤松博（全日本学連副会長）▽渉外　小西博喜（関西学連）▽監督　平岡秀雄（東海大監督）▽選手・ＧＫ　加藤洋一（慶応、178）、岩木辰彦（中央、175）中尾順一（大阪経大、182）・ＦＰ　長野一彦（日体、181）、坂本逸雄（日体、174）、滝口孝之（筑波、181）西山清（筑波、181）、植木義孝（中央、180）、山口哲史（日大、179）、村崎広（早稲田、190）、加古雅彦（慶応、177）、岩尾幸市（順天堂、178）、覚間張友（大阪経大、178）、栗屋敏則（同志社、173）、弓場義一（東北学院、176）。数字は身長。

東ドイツ、「現代最高」の力を発揮

善戦、ムード盛りあげた全日本女子

強かった。巧かった。速かった——世界選手権史上初の2連勝を遂げた東ドイツ女子ナショナルチーム（H・レンニング団長ら役員5、選手15）は、滞日8日間、東京、京都、大阪、名古屋の4都市で現代最高の技と力を存分に披露、風のように去っていった。

第3回日本×ドイツ民主共和国（東ドイツ）交流国際親善大会は、2月9日から16日まで、東ドイツ女子ナショナルチームを招いて4試合を行ない、東ドイツが、世界最強の貫禄を示して4連勝、各会場を埋めた国内ファンをうならせた。

迎え撃った日本側は、今秋、モスクワ・オリンピックアジア予選を控える新生・全日本女子が二試合第1戦13—27、第2戦13—26と、キャリア不足を若さ、気力で補ない善戦、〝日韓対決〟へ好ムードとなった。

また、単独で手合せした立石電機、初の連合編成、ジャスコ・大和銀行も、それぞれ、世界の女王の胸を借りて収獲の多い一戦、大盛況のうちに、シリーズの幕を閉じた。

これで、3回の通算成績は、東ドイツ側の17戦15勝2敗。このうち、女子は11戦9勝2敗である。

今後の交流については、両国とも継続を希望、これまでどおり両国体協を通じて折衝することとなった。

全日本、終盤スタミナ切れ

第1戦・全日本女子との1回戦は、2月10日午後3時53分から東京・駒沢屋内球技場で行われた。

審判＝千野恒夫、斉藤実。（観衆二千二百）

東ドイツ 27（15—4、12—9）16 全日本

得	【東ドイツ】		【全日本】	得
0	ツオーパ	GK	山本（ブラザー）	0
0	ルドルフ	GK	井村（立石電機）	0
1	クレチュマル	FP	松下（ジャスコ）	5
7	リヒター	FP	河田（ジャスコ）	3
6	クルーガー	FP	中川（ブラザー）	2
1	ロスト	FP	島田（日立栃木）	1
3	ヴンダーリッヒ	FP	小島（ビクター）	1
3	テイーツ	FP	山井（日立栃木）	0
0	クラウゼ	FP	吉田（日立栃木）	0
3	ウーリッヒ	FP	清水（ムネカタ）	0
0	エルベ	FP	染谷（ビクター）	1
3	マッツ	FP	伊藤（ビクター）	0
27	（3）	PT	（1）	13

〇…開会式で入場して来た両チームを見て、スタンドから早くもため息。

上背、それに身体の厚味の差が歴然なのだ。

それに表情の違い。クレチュマルを先頭に、全員が余裕しゃくしゃくの東ドイツに対し、緊張気味の全日本。

だが、先手は、元気よく、全日本がとった。

開始21秒、右45度から思い切りのよい河田のシュートが、相手ディフェンスに当たって角度が変わりゴール。

東ドイツは2分30秒、ヴンダーリッヒのミドルで同点としたが、全日本は3分20秒、小島が右サイドから押しこんで2—1、好調な滑り出しをみせた。

〇…全日本の出方を探っていたような東ドイツは、ここで早くも切り札を出す。

エース・リヒターにボールを集め、彼女の華麗な個人技を活かす策戦だ。

はたしてリヒターは4分5秒、FTからロストの開いた突破口を活かし同点シュート、さらに40秒後、絶妙のカットインから、クレチュマルの好パスを受けて2—3あっさり逆転した。

こうなると、東ドイツの若手に落ち着きが生まれ、プレーに鋭さが加わる。

6分のPTを失敗したクルーガーは、7分のPTをじっくり決め8分リヒター、9分25秒ティーツと矢次早やにゴール、さらに10分10秒、リヒターと左サイドのティーツによる鮮やかなスカイプレー成功、11分クレチュマル、11分30秒クルーガーと、あっという間に9—2と点差が開いてしまった。

〇…リヒターに始ったこの8点連取、一本のPTを含め、すべて異ったフォーメーションから生まれた。とりわけ7点目のスカイプレーは日本のお家芸をこなしたもので、試合後、クレチュマル監督は「このプレーは、かつて日本が我々に見せてくれたもの。世界選手権でも、ずいぶん活用できたがなんとかトウキョウで成功させ、日本のファンに見てもらいたかった」とニヤリ。

また、全プレーに、クレチュマル、リヒターが〝関連〟。この二人の存在を、改めて印象づけた。

両選手は、15分を過ぎるとベンチへ。代ってクラウゼ。マッツらがコートへ出たが、寒さで、身体



女王クレチュマル⑬の妙技は各地のファンをうならせた（第１戦。駒沢屋内球技場）

が冷え切り、動きが鈍い。

全日本はすかさず、12分松下のバウンズシュート、13分にはGK山本から染谷へ一気のパスが通る鮮やかな速攻、16分PT(松下)、18分、河田の右45度ミドルで6—9と差を詰め、スタンドを沸かせた。

○…全日本にとって惜しかったのは、19分20秒、GK山本―島田と渡ったワンパス速攻が、ややパスに乱れがあったとはいうものの、ヴンデルリッヒの激しいディフェンスにあって、つぶされてしまったことだ。

13分に同じ形でゴールを割られた東ドイツは、その直後、ベンチから、伝令がとんでいた。もちろん、記者席から、内容が判るわけはなかったが、おそらく、日本の速攻への注意だったに違いない。

クレチュマル監督は前日の記者会見で「全選手がベンチの指示を、すぐに消化する能力がある」と自からのチームの特長を話していたが、二度と同じ手を食わぬあたりは、正に、監督の言葉どおりだ。

島田の突進に対して、ヴンデルリッヒのとったディフェンスは、身体を活かして立ちはだかるといった感じだったが、GKからのパスコースを読み、さらに、島田の走路を見破っての好位置だった。

同じことは、GKツオーバのキーピングにもいえる。日本選手にシュートを放たれるたびに、ベンチのフランケ・コーチ(GK出身)と、一言、二言、言葉を交わして次に備えていた。

○…前半9—12は、全日本の善戦といえた。

前日、23時間の空の旅をつづけて到着、さらに館内の寒さ。東ドイツのコンディションがベストでなかったにせよ、国際試合初出場の若手が多い全日本としては、予想以上の健闘だ。

後半の立ち上りのデキもよかった。3分ヴンデルリッヒが、右サイド、右サイドの空間で、右手でボールをキャッチしながら、利き腕の左手に持ちかえてシュートを決めるという巧技を見せれば、直後、全日本はみごとなスカイプレー(松下)で応酬、5分セットからクレチュマル—リヒターのパスプレーを決められると、6分GK山本—染谷—中川と胸のすくような速攻を決めて11—15。

○…しかし、このあたりから、全日本に"疲れ"がのぞきはじめる。

パスのタイミングが崩れ、ノーマークのチャンスを落とす。

こうなると、東ドイツの一人舞台だ。開会式で感じた体力と余裕の差が、一気に発揮される。リヒターが、まるでダンスのステップを踏むように、日本のディフェンスの間をくぐり抜け、時には自から射ち、時には絶妙のパスを送って16分、ついに21—12と差がついた。

全日本は12分松下が、この日二本目のスカイプレー、18分、期待の島田が中央からジャンプシュートを決めたが、それまでのように連続ゴールを奪うような型にはなれず、18分以降はノーゴール、失点6と、力の差を見せつけられてしまった。

「15点差以内なら善戦」(渡辺強化部長)という、試合前の話からすれば、一応、評価してよい全日本の戦いぶりだが、東ドイツは終始、ゆとりがあり、ましてや「世界選手権の時を100とすれば、きょうのデキは50～60」(試合後クレチュマル監督の話)とあっては、とても、手放しでは喜んでいられない。

とりわけ、終盤のスタミナ切れは、今後の大きな課題だ。

タフでなる松下、中川でさえ「疲れた」とぐったりとなるほど、相手は大きく重かったのだ。

（杉山）

◇お詫び　本誌の発行が遅れ、読者、広告提供者各位に、ごめいわくをかけていることをお詫びします。

編集委員会

立石、前半みごとなゆさぶり

連合(ジャスコ大和銀行)は速さに屈す

第2戦・立石電機との試合は、2月12日午後3時から京都府立体育館で行われた。審判＝吉田博二藤本昇。（観衆千）

東ドイツ 26（16−9 / 10−4）13 立石電機

【東ドイツ】		得
GK	クェーネルト	0
	ルドルフ	0
FP	ウーリッヒ	5
	ロスト	2
	マッツ	2
	ヴンダーリッヒ	2
	ハイニッケ	3
	クラウゼ	0
	リヒター	4
	クレチュマル	0
	エルベ	1
	クルーガー	7
	26	
PT	（4）	

【立石】		得
GK	丸山	0
	井村	0
FP	姫野	1
	平下	4
	紀野	1
	橋ノ口	0
	藪田	4
	林	0
	羽立	3
	福永	0
	喜久山	0
	山下	0
	13	
PT	（3）	

○…東ドイツは、相手が単独チームとあって若手でスタート。

若手とはいうものの、いずれも金メダルメンバー、個々の力は、立石と比べものにならないハズだった。

しかし、チームスポーツというのは、1＋1が必しも2になるとは限らない。クレチュマル、リヒター（リヒターといったゲームメーカー（リヒターはエース・アタッカーでもあるが……）コート上に現れないと、パワー一本やりで、巧さに欠ける。

一方の立石は、まとまりのよさでは定評があり、井監督の好さい配もあって、1＋1が2にも、3にもなった。

それに、前回の交流で、全日本監督として指揮をとった井氏だけに、東ドイツの泣き所を知っていた。

ステップやスタンデイングから上と下を巧みに射ち分けさせて、東ドイツ・ディフェンスをゆさぶりに出たのだ。

○…この〃チーム編成〃の差が立石を、世界の女王に食い下らせる大きな原因になった。

こんなハズでは、という表情の東ドイツベンチだったが、前半はともかく、若手中心で通した。

レンニング団長は「ベテランと若手の差は、どんな局面でも、自分のペースを忘れないベテランに対して、若手は、苦しくなればなるほど一本調子になる」と説明しているが、この試合（前半）を見るかぎり、この評が当たっている。

本来なら、世界の女王のプライドからも、日本の一単独チームに例え、前半だけでも食い下られるというのは、許せないハズだが、なんとか、若手をベテランの域にまで達せさせたい、という東ドイツ側の狙いが、主力投入をガマンさせたのだろう。

○…後半、東ドイツは、ベストメンバーを繰り出した。

ベンチで、たっぷり立石の動きを観察していたベテランたちが、さてとばかりに、立ちあがってきては、立石は、ひとたまりもないあっさり、東ドイツは試合の主導権を握る。

こうなると、不思議なもので、前半、ドタバタしていた若手が、ピリッとしまり、そのパワーをいかんなく発揮する。1＋1は、いまや5であり10だ。

一方の立石は、それまでの善戦に気をよくして、攻め立てるのだが、その攻め口は、すっかり、相手ディフェンスに覚えこまれて、シュートにも持ちこめなくなる。

そうこうしているうちに、第1戦の全日本同よう、スタミナが途切れはじめる。

○…試合後、平下主将は、このあたりをこう説明する。「不思議なことに、せり合っていた時は、そう疲れを感じなかったのですが2点、3点、4点と引き離されはじめると、急に動けなくなってしまって……」。

陸上競技の長距離で、いったん止まると、次に走り出せなくなったり、抜かれると抜き返しにくくなるといわれるのによく似ている。

全日本にしても、立石にしても前半の善戦が、後半5分あたりまで終ってしまうところに、〃世界との差〃があるといえる。

2戦だけで結論を出すのはどうかと思うし、頑張っている選手には、気の毒だが、日本は、まだまだ、世界の一流国に対して、50分間は、わたりあえない、のである。

では、日本の女子ハンドボールの前途は絶望なのか。

井監督は「身体接触がはげしい競技だけに、いまのところ、体力で真っ向から〈勝負〉というわけにはいかない。

作戦面でなんとか工夫して、このハンデに立ち向かうべきだ」と試合後、こう語ったが、それには選手一人々々のキャリアが、大きなポイントになってくる。

前半は、明きらかに立石の試合運びに巧さと工夫が感じられた。

それが後半、キャリアのある東ドイツの主力に、あっさり抑えつけられてしまった。

時に応じ、相手に応じ、力の勝負でも、技の勝負でも、どちらでもこなせる非凡の腕前が、彼女たちにはあるのだ。

東ドイツと日本の実力差は、何年ぐらいの開きがあると思うかとクレチュマル監督に聞いたら「難しいね」といったきり、口をつぐんだ。質問が難しかったのか、それとも——。

みごとなスピードプレー示す

第3戦・ジャスコ、大和銀行連合軍との試合は、2月14日午後・時から大阪市中央体育館で行われた。審判＝新村理文、北岡大覚（観衆二千）

東ドイツ　24（11―5 / 13―6）11　ジャスコ 大和銀行 連合軍

○…東ドイツが、この日はスピード・ハンドボールを見せつけた。日本のハンドボールは、男女とも、〈速さ〉が売りものだったが、この日ばかりは、完全に、そのお株を奪われた。

「別に意識したわけではない」（フランケ・コーチ）というが、来日以来、しきりと「日本選手の速さは想像以上」といいつづけてきた彼女たちにとって、この日はスピードで勝負を挑んできたのは想像に難くない。

話はそれるが、東ドイツのハンドボールの求めるものは「速さ、美しさ」だという。

今回のメンバーで、競泳から転向のクラウゼが人気となったが、モントリオール・オリンピックのあと、女子陸上百メートルで、初めて11秒の壁を破ったR・シュテヒャーを、ハンドボールに転向させている（本誌146号参照）。

シュテヒャーは、どうもクラウゼのようにはいかなかったらしいが、いかにも、スピードハンドボールを目指すチームらしい話だ。

リヒターなどは、かつて百メートルを12秒4、5で走ったというし、ロストもティーツもヴンダーリッヒも、スプリンターのような走りっぷりだ。

○…この日も、日本（ジャスコ・大和連合）は、前半15分までは試合の体さいをととのえていた。

ところが、ほとんどの選手が、ヨーロッパのトップチームとの試合は初めてとあって、時間が経つにつれ、心身のスタミナが切れていった。

国内の試合なら、一つのフェイントで、半歩ほど相手をずらせばシュートチャンスをつかめるか、ヨーロッパチーム相手では、こうはいかない。長いリーチに包まれて、もがくだけだ。しかも、相手のウエイトに、攻防両面で押しこまれるから、その重さで、エネルギーをつかいはたす。

○…東ドイツは、連合チームの当りが鈍り出すと、さまざまなパスプレーで攻めこんできた。

驚ろかされたのは、リヒターやティーツ、クレチュマルらが、味方のパスを、キャッチしてから中継ぎするのではなく、指先で〝方向変換〟してつないだプレーだ。

サッカーやホッケーでは、こうしたダイレクトパスを、よく見かけるが、ハンドボールでは、男子でも、なかなかできない。

攻撃面では、来日以来「サイド攻撃がもっともよかった」とかでクレチュマル監督は、ご気嫌だった。

連合チームは、前2戦をみて、東ドイツの主武器をポストプレーとみて、一線防禦を引くなどしたが、上、サイドから射ちこまれ、速攻めては相手の帰陣の速さに、速攻の芽をつみとられ、前半15分5―9までで精いっぱいだった。

【ジャ・大和連合】		得
GK	中尾（大和銀行）	0
GK	山本一（ジャスコ）	0
FP	松下（ジャスコ）	5
FP	河田（ジャスコ）	3
FP	増永（大和銀行）	1
FP	平田（ジャスコ）	1
FP	若田（ジャスコ）	0
FP	横山（ジャスコ）	1
FP	千原（大和銀行）	0
FP	宮本（大和銀行）	0
FP	辻本（ジャスコ）	0
FP	富家（大和銀行）	0
	PT	(1)
		11

【東ドイツ】		得
GK	クエーネルト	0
GK	ツォーバ	0
FP	マッツ	1
FP	クルーガー	4
FP	ロスト	1
FP	クラウゼ	2
FP	ウーリッヒ	3
FP	ハイニッケ	4
FP	ランゲンベルグ	0
FP	エルベ	1
FP	リヒター	5
FP	クレチュマル	3
	PT	(1)
		24

◇その他の出場者【ド】FPヴンダーリッヒ、【連】GK矢部（ジャスコ）、FP山本二（ジャスコ）、義川（大和銀行）、西田（大和銀行）＝いずれも得0

東ドイツ女子ナショナル来日メンバー

・団　長　ハリー・レンニング（52才）
・監　督　ピーター・クレチュマル（46）
・コーチ　クラウス・フランケ
・医　師　DR・ベルント・ヒルゼ
・マッサージャー　モニカ・ミューラー

・選手	身長	体重	公式国際戦	職業
GK①ハンネロア・クエーネルト（31才）	175cm	73kg	105回	工員
⑫ハンネロア・ツォーバ（23）	173	63	149	会社員
⑯レナーテ・ルドルフ（29）	166	68	21	教師
FP②カトリン・クルーガー（19）	183	78	36	職員
③エヴリン・マッツ（23）	176	70	112	学生
④ロスヴィタ・クラウゼ（29）	175	74	119	タイピスト
⑤クリスティナ・ロスト（26）	171	62	95	技師
⑥ペトラ・ウーリッヒ（24）	166	68	174	工員
⑦クラウディア・ヴンダーリッヒ（24）	171	66	51	学生
⑧エバ・ランゲンバーグ（23）	172	68	15	学生
⑨コロネリア・エルベ（19）	172	70	16	学生
⑩マリオン・ティーツ（26）	168	69	128	技師
⑪クリスティナ・リヒター（32）	169	67	208	教師
⑬（主）ヴァルトラウト・クレチュマル（31）	168	73	213	銀行員
⑭バーギット・ハイニッケ（21）	170	67	32	学生

・選手名左の○内数字は今回の背番号
・公式国際試合出場数は日本戦まで

五輪予選、韓国開催ムリか

【速報】モスクワ・オリンピックまで、あと500日を割り、ハンドボール競技は、すでにヨーロッパ代表など大半が決定、本誌10頁所報のとおり、男子予選リーグの組み分けも発表されているが、今秋11月の「アジア地域予選（男女）」の開催地は、いまだに白紙に近い模様である。

同予選は、当初、韓国に内定したかに伝えられていたが、昨冬12月のバンコクにおけるAHF（アジア・ハンドボール連盟）会議あたりから、韓国に開催の意思のないことが、もれはじめている。

IHF（国際ハンドボール連盟）は、本部、アジア選出の渡辺和美理事とも、2月末現在、〝開催地〟を公表していない。

活躍目立った松下、河田

第4戦（最終戦）・全日本との2回戦は、2月15日午後6時21分から名古屋市体育館で行われた。審判＝光島礙雄、狩野幸介。（観衆千八百）

東ドイツ 22（9—4 13—8）12 全日本

【全　日　本】得
GK{山本（ブラザー）0
　　矢部（ジャスコ）0
FP{河田（ジャスコ）5
　　中川（ブラザー）1
　　松下（ジャスコ）3
　　島田（日立栃木）1
　　小島（ビクター）1
　　染谷（ビクター）1
　　千歩（北国銀行）0
　　山村（ブラザー）0
　　植田（ブラザー）0
　　則武（ブラザー）0
PT（2）12

得【東ドイツ】
0 ツオーパ}GK
0 ルドルフ}
2 クラウゼ}FP
5 ロスト
5 リヒター
3 クレチュマル
0 マッツ
4 クルーガー
0 ウーリッヒ
1 ランゲンベルグ
1 ハイニッケ
1 エルベ
22（2）PT

○…第1戦と同じように、というより、その時以上に、全日本は世界の女王に食い下れた。

30秒、珍しくみせた相手ミスから速攻に持ちこんで小島が、1分には中川が一気になだれこんで2—0。

東ドイツは、1分30秒クレチュマルのカットインで初ゴールしたが、全日本は2分20秒PTを松下が決めて3—1、そのあとリヒター—クレチュマルの黄金ペアに1点を奪われたが、すぐに河田が左サイドから、ミドルをとばし先行をつづけ、7分の同点（4—4）も、8分、速攻から河田で、リードをつづけた。

東ドイツは、ここで、クレチュマル監督が立ちあがり、夫人のクレチュマル主将に、なにごとかを指示。

○…その策戦が、なんであったかは、すぐに判った。リヒター、クレチュマルに相手の守りを引きつけておいて、ロストを活かす攻撃だったのだ。

ロストは、みごとに期待に応える。8分25秒得意のポスト、11分30秒シュートリバウンドを拾って倒れこみ、12分20秒クレチュマルからのクイックパスをうけてランニングシュートと多彩な〝個人投〟で3点連取、あっさり逆転した。


名古屋での最終戦，名手リヒターの攻撃　（スポーツイベント提供）

ロストは、もともとポストプレイヤーとして定評がある。

リヒターやクルーガー、マッツティーツらのアタッカーが動けるのはロストの巧妙な動きに助けられるケースが多い。

巧妙といったがその動きは激しいという表現のほうがいい。

この場面では、そうしたアシスト的なプレーではなく、アタッカー（ポイントゲッター）としての役をこなした。

○…全日本も、13分松下のミドル、14分40秒には松下—河田のコンビで、再びタイ（7—7）と粘りついた。

このシリーズ、松下と河田の動きが実にいい。

加藤、穂積（ともにビクター）、紺野（立石）らが傷つき、自分たちに課せられた〝責任〟が、積極的なプレーへつながったのかもしれないが、相手を恐れずにプレーするのは、さすがオリンピック出場組といえる。

ところで、今の全日本は、ここでもう一押しができない。

相手が、世界一では、ムリな注文かもしれないが、連続得点ができるかどうかは、試合の流れに大きな影響がある。

仮に、オフェンスに、その力がなければ、ディフェンスでの一踏んばりを……というのでは、高校チームあたりの訓話めくが、結局全日本は、ここで得点が止まり、5連続失点という悪いパターンを

全日本出場選手の身長

・GK		
○	矢部	172cm
	井村	170
	山本	165
・FP		
	島田	172
	千歩	171
	清水	169
	河田	167
○	則武	167
	吉田	165
	染谷	165
	小島	164
	松下	163
	伊藤	160
○	山村	159
	中川	157
○	植田	155

・○印はヤングナショナル

みせて試合を決められてしまう。

○…7—7から東ドイツは、15分勝ちこしを狙った全日本の速攻を食い止めた逆襲でクレチュマルが決め、さらに、この直後に送りこまれたクラウゼが、リヒターとのスカイプレーに成功、19分ハイニッケの速攻、19分クラウゼ—クレチュマル—リヒターの目のさめるようなパスプレー、20分リヒターが左腕で押しこむといった変化のある攻撃で12—7と差をつけたのだ。

全日本は7—8のあと、PT失敗という逸機はあったものの、カサにかかった東ドイツの攻撃と、守りの固さに、それまでの善戦がウソのような沈黙で、またしても気をいれた時の東ドイツのすさまじさを、見せつけられてしまった。

○…後半の立ちあがり、全日本はPT二本を含む三回の得点機を落とし、4分ようやくPT(松下)で9—13としたが、東ドイツは、5分、この日二本目のリヒター—クラウゼのスカイプレーなどで主導権をガッチリ、10分19—11と大勢を決めた。

終盤、東ドイツは、続々と若手を投入したばかりか、ホープといわれる45度のクルーガーをサイドポストなどにも廻して、まるで〃実験試合〃。

それでも全日本は、点差を詰めることができず、なんとかダブルスコアを免れただけだった。

○…〃世界〃と〃日本〃の差は、やはり、相当大きなものであった。

東ドイツが、すごみで勝負してくるタイプでなかったため、「案外な」印象を受けた人もいるようだが、それは、あくまで、表面的なもの。

選手一人々々に備った心技体、ベテランのみせた展開力は、とてものことでは、及ばない。

全日本は、前半はともかくも戦える。今後の課題は、この「善戦時間」を1分づつ伸ばしていくことだろう。

そのためには、心技体の洗い直しが、当然、必要となってくる。

なお、全日本女子の公式国際試合は、この日が61試合目。通算成績は26勝1分34敗、東ドイツには6戦6敗である。 (杉山)

□…第1戦(東京)も第4戦(名古屋)も、試合後、全日本のコーチングスタッフから出てくる言葉は、秋の韓国戦〜オリンピック・アジア予選の〜ことばかり。

東ドイツの話になっても「さすがですよ」「我々の理想とするチーム、といっても、すぐには追いつけそうにありません」などというだけで終わる。

□…ムリもない。昨年6月世界選手権アジア予選に敗れて以来、全日本女子の周辺は「韓国への雪じょく」一点ばり。

しかし、そうはいっても、新生全日本のチーム力を試す機会がなく、黙々とトレーニングを励む以外に道はない感じだった。

ところが、突然、東ドイツの来日が決まり、2試合が組まれたのだ。まさに干天の慈雨に等しい。

□…相手にとって不足はなし、もし、善戦をして、キャリアに不安の若手が自信でもつけてくれれば、いうことなし。

しかも、昨冬の世界選手権で、韓国が東ドイツと顔を合せ、12—29で敗れている。間接的ながら、日韓の差も計れる。

ある強化委員は「世界のクイーンには申しわけないが、韓国戦を前に、全日本のチーム造りが第一目的。とても、東ドイツの技を学ぼうなどという余裕はありません」と、思わず本音(ほんね)をもらした。

□…さて、それでは〃結果〃はどうだったか。

—全日本女子 パンチ力、スピードまだまだ不充分

卒直のところ、国際プレイヤーとして及第したのは松下、河田(ともにジャスコ)のオリンピック組と中川、GK山本(ともにブラザー)小島(ビクター)ぐらいのもの。あとの選手は、初の大チーム相手、予想以上に伸び伸びとプレーはしていたものの、まだまだ安定感にかけ、頼りない。

負傷でこのシリーズを休んだ加藤、穂積(ともにビクター)、紀野(立石)が戻ったとしても、日本に2連勝、そのうえヨーロッパでの桧舞台を踏んできた韓国を抜き返すには、課題が多い感じである。

□…池田鉄哉・全日本女子監督は、秋のだいじを前に、さい配を揮ろチャンスに恵れたことを喜びながらも、そのチーム力には、けして楽観を許していない。

特に、同監督の狙う〃スピードプレー〃は、まだまだ不充分。

「秋に向かって、ようやくチームの気持ちが一つにまとまってきたこと。加藤ら大駒三枚を欠いて東ドイツからともかく12〜13点を奪えたこと」を収獲としているが今後一カ月に一回の割で開く強化合宿で、どこまでスピードとパンチ力がつくか。

クレチュマル監督は「第1、4戦とも前半に見せたような試合ぶりなら、韓国にじゅうぶん勝てる」といっていたが、その言葉のウラには、いずれも後半25分の試合ぶりでは…という心配がかくされている。頑張れ、全日本女子。

新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidas は世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidas の3本線はオリジナルです。

ヒールカウンター



Napoli

3155ナポリ
(赤×白) ¥7,500
●モデル「アテネ」の色違い



Athen

3150アテネ
(青×白) ¥7,500
●ベロアレザー甲皮
●シェルソール





3本線

■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。
■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。
■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。
■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

Handball Special

(青×白) ¥19,000



すべてのスポーツマンに、3本線のNo.1感覚を。

adidas®

●お求めは adidas 特約店で。

  兼松江商株式会社 発売元  兼松スポーツ用品株式会社

“芸術品”のKR砲

□…2連勝3度の優勝にすべて名を連ねたクレチュマル(主将)、リヒター、ティーツ、ツオーバ、クェーネルトの5選手は、さすがに女王のなかの女王。

心技体、抜群のものがあり、各地でファンをうならせたが、なかでもクレチュマル、リヒターは、すでに二百余試合に出場し、この間に二人で叩き出した得点が、なんと一五一九点(日本戦を含めると一五四七)という驚異的なものエース・アタッカーでもあり、パッサーでもある両選手の動きはまさに“芸術品”。

モスクワで金メダルをとって引退したいというが、この二人がいる限り、東ドイツは磐石ではあるまいか。

主婦選手が七人揃う

□…そのクレチュマル、監督のピーター氏が、ご主人なことはあまりにも有名。

レンニング団長は、記者会見で世界選手権2連勝の秘密を聞かれ「監督とキャプテンが夫婦なこと」と答えて、爆笑をよんだ。

このほか、クェーネルト、リヒター、ロスト、ウーリッヒ、ハイニッケ、ランゲンベルグが、いずれも主婦選手。

ロストは、ご主人のペーター氏も男子ナショナルプレイヤーで、5年前に来日しているが、家庭に入っても、ナショナルチームで活動するなど、日本では考えられぬ話。逆に、東ドイツ選手にとって二十代後半になると“引退”してしまう“日本の事情”は「まったく判らない」。

競泳から転向のクラウゼ

□…どこへ行っても報道関係者からインタビューを申しこまれた人気者はクラウゼ。

なにしろ、メキシコオリンピックに、東ドイツの競泳選手として四百メートルリレーに出場、銀メダルを獲得、そのあと、ハンドボールに転向、モントリオール・オリンピック代表として、またしても銀メダルを手にしたというのだからすごい。

近代オリンピックの女子で、このような快挙をとげたのはクラウゼ一人とか。

「水泳はせいぜい十七、八才までのスポーツ。生涯つづけられるスポーツをと思って、活動的なハンドボールを。そうしたら…」という。

今はタイピスト、将来は、ハンドボールコーチになって、後進を育てたいそうだが、「その前にモスクワで金メダルをぜひ…」といって笑った。

思い出す密室試合

□…今回で61回となった全日本女子の公式国際試合だが、国内ファンの前で、プレーするのは、史上初めて。

それというのも、これまで唯一回のチャンス、4年前の世界選手権アジア予選決勝は、相手がイスラエルとなったため、日本協会は前代未聞の観客ゼロで試合を強行したものだ(本誌第138号参照)

日本協会・荒川理事長は、当時を思い出して「まさに感無量」といっていたが、こうした前歴?があるせいか、東京、名古屋ともスタンドはほぼ満員。「初登場の全日本」に、大きな声援がとんだ。

ファンのPT捌くツオーバ

□…東ドイツチームきってのユーモリスト、GKツオーバが、京都でのファンサービスに一役買いスタンドの拍手をあびた。

地元協会のハーフタイム企画、少年ファンの「PTコンテスト」にゴールを守ったもので、『試合以上の緊張よ』とおどけながら、14スローのうち9本をとめる妙技をみせた。

このツオーバ、リヒターらと並ぶベテランだけに、どんなビッグゲームでも余裕じゅうぶん。得意のジョークで、チームメートの気持ちをほぐすなど、正にチームの守り神。

日本の選手が、試合前、円陣を組んで「ウオッ」と気合いを入れるのが気にいったのか、帰ってから、ホームクラブのSC・ライプチヒに採り入れるのだ、と張り切っていた。

チェコ行きやめて日本へ

□…世界選手権優勝後、東ドイツは、さぞかし、各国から引っぱりダコと思われたが、日本遠征がなんと新スタート。

「ナショナルとしては、久々に長期間の休養」(クレチュマル主将)をとっていたという。

もっとも、中心選手の属しているSC・ライプチヒ、TSC・ベルリンは、全国リーグのほか、ヨーロッパカップなどで忙しく、個々のコンディションは上々。

一軍が日本に来ている間、二軍(ジュニア)は、チェコの女子国際トーナメントに参加中だそうで初めの予定では、今回、来日したメンバーが、その大会へ行くことになっていた。

日本のためにと主力が来てくれたわけだが、この恩、「モスクワ行」で返さなくては。

“工夫のある走りを”
クレチュマル監督の話

日本チームは、相変らず速いし、テクニカルだった。

速さは、充分警戒してきたつもりだが、選手たちも、予想以上といっていた。

問題は体格とスタミナ。いまのような小柄では、限界がみえているのではないか。

もっと大きな選手を見つけて今のスピードプレーを身につければ、ヨーロッパにはない新しいタイプが生まれるし、世界の上位を狙える。

韓国との比較を各所で聞かれたが、第1戦(東京)でのデキなら勝てる、第2戦(名古屋)なら互角か。第2戦では、日本は、あまりにも攻撃が単調すぎた。

それに速く走るのはいいが、ムダな走りも目につく。もっと効率のよいランニング・プレーを考えるべきだ。

目立った選手?。わずか4戦では評し得ないが、松下は、ヨーロッパのどこへ出しても、通用する。

我々は、もちろん、オリンピックでの優勝を狙っているがソ連、ハンガリー、ユーゴとの実力は紙一重。予断を許さない。

若手の力がどこまで伸びるが各国ともカギだ。

私も選手全員も、日本とモスクワで戦かう日のくることを、心からお待ちしている。

関東学生選抜、実りある西ドイツ遠征

関東学連二度目の西ドイツ研修遠征は、2月27日から3月14日まで、福地賢介団長（関東学連理事長）ほか役員8、選手39（男22、女17）名が参加して行なわれた。

男女とも、西ドイツの中堅クラスが対戦相手となり、男子は5戦2勝3敗、女子は5戦3勝1分1敗で、女子の1敗は、西ドイツ全国リーグで優勝を狙うGW・フランクフルトに20—22で押し切られたもの。それぞれ、本場の技と力に接して、大きな収穫を得た遠征になった。各試合スコアは次のとおり。

◇第1戦（3月1日）

▽男子

ボルシア・フルダ 32（14—7、18—8）15 関東学生

▽女子

関東学生 14（5—6、9—8）14 ボルシア・フルダ

◇第2戦（3月4日）

▽男子

関東学生 25（15—11、10—12）23 VfL・ヘッペンハイム

▽女子

関東学生 22（11—3、11—4）7 VfL・ヘッペンハイム

◇第3戦（3月5日）

▽男子

関東学生 22（13—10、9—10）20 ケルスタパッハ

▽女子

GW・フランクフルト 22（13—8、9—12）20 関東学生

◇第4戦

▽男子（3月7日）

ブラットバッハ 23（11—12、12—10）22 関東学生

▽女子（3月6日）

関東学生 17（8—8、9—7）15 TSG・オーバーウーゼル

◇第5戦＝最終戦

▽男子（3月8日）

TSV・フンゲシュタット 32（19—12、13—10）22 関東学生

▽女子（3月7日）

関東学生 16（5—7、11—1）8 ヘスパッハ

各選手試合ごとに自信

○…男子は、第1回の前年は、世界選手権直後の全国リーグインターバルにあたり、強豪グロスバルシュタットらと対戦できたが、今回は、いまがリーグの最盛期とあって、二部リーグ以下とのカード。といっても、層の厚い西ドイツ球界では、手応え充分。乱打戦に誘いこまれたあと、最後は、相手のパワーに押し切られたが、吉見、田口、松井、仲田、金岡、武藤らが、試合ごとに自信をつけ、腕をあげた。第2戦のVfL・ヘッペンハイムは昨春、来日した。

○…女子は、全国リーグ南地区で首位争いを演じている強チームGW・フランクフルトや、二部リーグ南西ゾーン北地区でトップを走り、来シーズン全国リーグ入りを、ほぼ確実にしているTSG・オーバーウーゼルらとの顔合せ。

この二試合は、日本の実力を知るうえにも、かっこうのものだったが、オーバーウーゼルにせり勝ち、フランクフルトに2点差の惜敗は、賞されていい。

特に、フランクフルト戦は、相手側にウェーバー、コクの両ナショナルプレイヤーが居り、しかも西ドイツ女子が、試験的に採用している＜30分ハーフ＞を挑まれてのものだけに、評価される内容だ。

個々のプレイヤーでは、磯山、川波の東女体大コンビの攻撃力が光り、戸栗の安定も目立った。

なお、監督は男子が菅野富夫氏（早大監督）、女子が高野亮氏（東女体大監督）。

——遠征メンバーと個人得点——

○……男　子……○

		第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦
GK	菊　島（早稲田）					
	譲　原（早稲田）					
	井　藤（日　体）					
	須　藤（日　大）					
FP	松　井（日　体）	4	4	6	8	5
	伊　藤（日　体）		2	1		
	名　嘉（日　体）	1	3		4	
	池　田（日　体）			2		
	溝　部（日　体）	1				
	吉　見（早稲田）	4	7	3	3	5
	船　橋（早稲田）	1	1		4	
	犬　飼（早稲田）			3		1
	武　藤（早稲田）	1	1		3	
	仲　田（日　大）		6			1
	水　島（日　大）					
	金　岡（日　大）			4		1
	田　口（中　央）	3		2		5
	藤　井（中　央）		1			
	北　川（慶　応）					1
	炭　本（慶　応）					1
	三本松（国士館）			1		2
	三　宮（大東文）					

○……女　子……○

		第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦
GK	高　松（東女体）					
	稲　葉（日　体）					
FP	磯　山（東女体）	4	7	4	5	6
	川　波（東女体）	2	3	7		
	酒　井（東女体）					
	坂　本（東女体）					3
	浜　村（東女体）		1			1
	籐　木（東女体）	4	4	3	6	4
	小野森（東女体）					
	鈴木紀（日　体）	1	1	1	3	
	石井幸（日　体）	1	2	2		2
	大　崎（日　体）		1		3	
	戸　栗（日　体）	2	3	3		
	後　藤（日　体）					
	鈴木真（日女体）					
	石井貴（日女体）					
	下　山（日女体）					

日韓社会人交流

仁川市庁(女子)来日、全日本実業団(男子)が遠征

全日本実連は、延び延びになっていた第7回日韓社会人交流を、女子が3月16日から22日まで国内で、男子が3月19日から28日まで韓国で行うことになったと明きらかにした。

まず、来日する韓国女子は、2月上旬ソウルにおける代表決定戦で1位となった仁川市庁の単独チーム。

日本協会の関係者は、韓国を代表する国際的アタッカー・李相玉のいる造幣公社（ソウル）有力とみていたが、仁川は造幣を16―15で破った1勝にモノをいわせ、51年の交流につぐ、2度目の来日を果たした。

今年は、秋にモスクワ・オリンピックアジア予選が控えており、アジアのハンドボール界をリードする日韓両国の交流は、例年にも増して意味があるが、特に、女子は、昨年の世界女子選手権アジア予選以来というもの、両国の〝対抗意識〟は、ますます激しさを加えている。

日本女子界の、韓国に対する闘志は、異常、悲壮なものがあり、今回の交流も、ミニ・アジア予選と見立てるほどの燃えかただ。

仁川の主力は、世界女子選手権代表の張泉姺（韓星女大出）を切り札に、長身の李南子、ベテランの朴妙順、朴玉景、ナショナルのGKコンビ崔聖姫、安美玉らで、この5選手は、造幣公社の中心選手と合体して、韓国ナショナルを構成するものとみられている。

このところ、日韓の女子交流は社会人に限らず学生、高校とも韓国優勢で、その結果が、ナショナル敗北にまでつながってしまったわけだが、特に、ナショナルの中核を成す社会人での勝敗は、微妙な影響を及ぼす。

一昨年春の第6回交流で、韓国側が、来征した全日本実業団選抜に4勝1敗と勝ち越したことの自信が、世界選手権アジア予選で勝利をもたらすことになった、とは両国関係者の一致したみかただ。

それだけに、日本協会強化サイドは、今回のシリーズで、あわよくば全勝を狙っており、各チームの奮起を促している。

過去6回の通算成績は、日本側の27戦16勝1分10敗。

仁川市庁は、51年来日時1勝3敗、52年の交流で1勝をマークしており、このほか、訪韓した全日本学生女子と1勝1敗の記録がある。

○…日程（全6戦）…○

▽3月16日、対大和銀行（18時大阪東淀川体育館）▽18日 対ジャスコ（14時、四日市市体育館）▽19、20日対実連ジュニア選抜（17時、名古屋市体育館）▽21日 対ブラザー工業（13時、名古屋市体育館）▽22日、対北国銀行（18時小松市体育館）

（注）名古屋市体育館での3試合は第7回NBN（名古屋テレビ）杯全国女子選抜大会として行われる予定である。

男子も初の強力編成

一方、男子は、初めて「実業団選抜」を編成して乗りこむ。

そのメンバーも、日本リーグ上位の本田技研鈴鹿（三重）、日新製鋼（広島）の主力各二人に、日本リーグ二年連続得点王・松本（湧永薬品）を加えた強力な顔ぶれだ。

これまで、訪韓したのは、45年の愛媛ク、48年、51年の実連ジュニアの3度あり、まずまずの成績をあげていたが、一昨年秋の第6回交流では、韓国側が、アジア選手権代表の李鍾七、鄭亨均、杜暁均らを含んだ選抜チームで初来日した気勢に押され、1勝4敗の完敗に終っている。

このため、実連では、今回、かつてない本腰を入れての派遣チーム選考になったものだ。

相手側の対戦チームは、本誌〆切りまでに明らかとされていないが、4～5試合の予定で、女子同よう、勝ち越しが目標。

過去の通算成績は、日本側の30戦18勝1分11敗。

○……韓国女子・仁川市庁……○

・団長	李 慶夏（京畿道協会々長）		
・監督	朴 基洌		
・コーチ	金 永年		
・総務	劉 彰熙		
・GK	崔 聖姫	(21才)	167cm
	安 美玉	(20)	168
・FP	鄭 述礼	(21)	163
	金 貞愛	(18)	165
	李 南子	(20)	174
	朴 妙順	(23)	168
	朴 玉景	(20)	167
	張 泉姺	(20)	169
	朴 熺花	(21)	166
	黄 分徳	(21)	160
	金 玉花	(20)	163
	梁 英淑	(18)	163

○……日本男子・全日本実業団選抜……○

・団長	竹野 奉昭	(全日本実連副理事長)	
・監督	細野 秀男	(本田技研鈴鹿監督)	
・コーチ	寺本 信一	(大崎電気監督)	
・総務	中田 隆一	(本田技研鈴鹿)	
・GK	原田 昌昭	(大崎電気)	180cm
	大園 勝行	(大同特殊鋼)	180
・FP	田上 敬三	(本田技研鈴鹿)	178
	喜井 美瀧	(本田技研鈴鹿)	180
	下茂 文秋	(日新製鋼)	176
	吹上 明	(日新製鋼)	171
	松本 義樹	(湧永薬品)	173
	浦田 勝之	(大同特殊鋼)	170
	梅屋 正直	(三陽商会)	186
	椿原 美春	(大崎電気)	176
	池辺 悟	(日鉄建材)	168
	南 喜文	(新日鉄大分)	180
	牧 一秋	(トヨタ車体)	180
	千葉 龍明	(東京重機)	173

昨夏、千葉教員が遠征

日本協会の日韓交流とは別に、昨夏8月、千葉教員が韓国へ単独遠征、仁川とソウルで各1試合、2連勝している。

▽第1戦（8月22日・仁川）

千葉教員 26（12―12、14―12）24 仁荷工専

▽第2戦（8月23日・ソウル）

千葉教員 22（9―10、13―10）20 成均館大OB

プレス・ルーム ＜18＞

杉　山　　茂
——（ＮＨＫ運動部）—

■七選した荒川清美理事長

あるいは、新理事長誕生かといわれた2月25日の全国理事会は、すんなり荒川清美さんの七選にまとまったようだ。

この新任期を全うすれば、実に十四年という長期政権。もちろん〝史上最長〟である。

別に、年数の多少を競い合うものでもなし、荒川さんにしてみればいつの間にか、こんな長くなってしまった、というのが実感だろう。

理事会後、何人かのかたに、会議の模様を聞いたが、荒川さんは「今回を最後に…」という条件？を出しての、七選受諾だったという。

荒川さんが、バトンタッチを真けんに考えはじめたのは、新しいことではない。いや、もうかなり前からのことだ。僕が、最初にその話を聞いたのは、四十八年秋ユーゴナショナルが来た時。それから、あっという間に月日が経ってモントリオールオリンピックが終った五十一年秋。「今度こそ…」といわれていたが、田村正衛前会長の勇退—斎藤英四郎会長の新任という大きなエベントがあって、留任を請われた。これで六選。そして二年が過ぎ、七選。

僕は、同一の〝政権〟は、あまり長くないほうがいいと思う。荒川さんも、その点、まったく同感で、潮どきのタイミングをはかりつづけていたのは、事実だ。

だが、どうしても、荒川さんの所へ、理事長の椅子は廻ってしまうのである。

荒川さんのもっている施策、政策、つまりアイデアは、率直にいって、ミュンヘン・オリンピックまでで出つくしている。

まあ、そのあと、モントリオールオリンピックで、女子種目実施という、新しい発奮材料はあったものの、ミュンヘンの経験があれば、乗り切れるものだった。

七選を迎えた荒川体制に望みたいのは、五選、六選、七選と数をつないで来た任期ではなく、すべて、初心に帰って、一から出なおしの気構えで、日本協会運営に取り組んで欲しいということだ。

その中心となるのは、当然、理事長である。

つまりは、荒川さん自身が、12年前、45才の若さで理事長のポストに就いた時の発らつさ、新しさに戻れるかがカギというわけ。もし、この任期中に、その新鮮さが現れてこないようなら、日本ハンドボール界は、暗礁に乗りあげてしまう懸念さえある。

それを回避するためには、荒川さんを取り巻く首脳陣の感覚も大いに、影響してくる。苦言を呈するならば、ここ二〜三年、日本協会執行部は〝荒川さんまかせ〟でことを処理しすぎる。

中央、地方を問わず、荒川さんに一任しておけば大丈夫という信頼は、大したものだと思うが、彼だってスーパーマンじゃない。

他の人たちが、どしどし新しい考えを理事長にぶつけて、やり合いながら前進すべきだ。

そういう〝構造〟なら、荒川体制は、八選、九選したっていいし支持もしたいが、荒川さんの〝顔〟を頼りに、安定を決めこむ長期政権なら、いささか、僭越（せんえつ）だが、「今回を最後に…」という荒川さんの言葉を、素直に受けとりたい。

それだけに今期、荒川さんにぜひもう一度、〝勝負〟に出てもらいたいのである。

■中国、早くも「45秒ルール」

この雑誌が出る頃は、いわゆる「中国問題」に対する国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）理事会の一つのまとめができて、4月のＩＯＣ総会（モンテビデオ市）への方向が固まっているかもしれない。

中国が、オリンピックの舞台へ復帰するとなれば、当然、ハンドボール界にも、なんらかの影響が生じて来よう。

中国は、国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の、正式な仲間には、これまで一度もなっていない。

しかし、その国際活動は、かなり前から活発で、昭和三十年代後半に、東ドイツやルーマニアを招いて国際試合（当時は十一人制）を行なっているし、三十八年には国内最強の軍隊選抜がレニングラード（ソ連）遠征したニュースを耳にしている。

日本とも四十、四十一年に交流し、特に、四十一年秋の中国ナショナル来日は、あらゆる日中スポーツ交流の、文化革命前最後の大会となる〝歴史的〟なものだった。

文化革命後、他のスポーツよりは復活が遅れたが、四十九年、第七回アジア競技大会（テヘラン）の時、中国、クウェートが主体となって、まさに突然、アジア・ハンドボール連盟を結成したのは、ご存知の読者も多いだろう。

最近、僕を驚ろかせたのは、早くも国内の一部で「45秒ルール」を採用していることだ。

「45秒ルール」は、ソ連が七十年代に入って提唱、ＩＨＦ総会で否決の歴史を繰り返しながらも、しだいにスペイン、ユーゴなど同調者を増やし、ＩＨＦも、昨秋の総会では、否決から継続検討事項にその姿勢を変化させている。

中国は、その情勢をつかんで、実験ルールとしているのだ。

一昨年のアジア選手権（クウェート）で、日本は中国に一応完勝しているが、今、戦ったらどうか無気味である。不安である。

センバツ目指し各地で熱戦

第2回全国高校選抜大会は1頁所報のとおり、3月25日から名古屋の愛知県体育館で行われるが、各ブロック代表を推せんする地域大会の結果は次のとおりである。

北海道

（昭和53年12月24、25日・札幌中島SC）

▼男子1回戦（2試合）
釧路江南 18（9—4、9—5）9 札幌西
入雲 20（10—7、10—8）15 留萌

▽同準々決勝
函館有斗 26（14—4、12—4）8 紋別北
札幌南 18（10—6、8—6）12 釧路江南
入雲 14（8—5、6—2）7 月寒
釧路湖陵 28（16—12、12—6）18 室蘭東

▽同準決勝
函館有斗 24（16—3、8—2）5 札幌南
釧路湖陵 13（6—3、7—5）8 入雲

▽同決勝
函館有斗 22（11—6、11—4）10 釧路湖陵

▼女子1回戦（2試合）
釧路湖陵 12（6—1、6—6）7 恵庭南
函館商 16（6—3、10—3）6 室蘭東

▽同準決勝
釧路湖陵 11（6—5、5—3）8 函館女商
釧路商 11（2—0、2—1：4—4、3—3）8 函館商

▽同決勝
釧路湖陵 9（1—2、2—0：0—0、0—0：4—4、2—2）8 釧路商

東北

（1月26、27日・宮城県中新田町民体育館）

▼男子1回戦（2試合）
青森商（青森）14（9—4、5—5）9 湯沢（秋田）
仙台育英（宮城）22（9—2、13—1）3 新庄工（山形）

▽同準決勝
聖光学院（福島）19（10—8、9—6）14 青森商
仙台育英 22（16—3、6—2）5 盛岡一（岩手）

▽同決勝
聖光学院 13（7—6、6—6）12 仙台育英

▼女子1回戦（2試合）
秋田和洋女（秋田）7（4—3、3—2）5 米沢女（山形）
涌谷（宮城）19（6—2、13—0）2 緑ケ丘（福島）

▽同準決勝
秋田和洋女 11（7—3、4—5）8 青森西（青森）
涌谷 12（6—2、6—4）6 花巻商（岩手）

▽同決勝
涌谷 6（3—2、3—3）5 秋田和洋女

北信越

（1月14、15日・柏崎工高体育館）

▼男子1回戦（1試合）
氷見（富山）33（20—2、13—4）6 北陸（福井）

▽同準決勝
坂城（長野）17（9—5、8—4）9 巻（新潟）
氷見 15（9—4、6—4）8 小松（石川）

▽同決勝
氷見 18（9—6、9—3）9 坂城

▼女子1回戦
有磯（富山）8（5—2、3—1）3 新潟江南（新潟）

▽同準決勝
小松市女（石川）18（8—4、10—4）8 松本美須々ケ丘（長野）
仁愛女（福井）7（3—5、4—1）6 有磯

▽同決勝
小松市女 11（5—1、6—0）1 仁愛女

関東

（2月4日・浦和市立高体育館）

▼男子決勝
中大付（南関東・東京）18（7—5、11—9）14 川口北（北関東・埼玉）

▼女子決勝
昭和学院（南関東・千葉）10（5—4、5—4）8 栃木女（北関東・栃木）

▽男子北関東大会・1回戦
吉井（群馬）21—13 土浦一（茨城）
川口北（埼玉）20—12 足利工（栃木）

▽同決勝
川口北 20（14—10、6—9）19 吉井

▽同・南関東大会1回戦
中大付（東京）16—8 横浜商工（神奈川）
日川（山梨）17—9 千葉南（千葉）

▽同決勝
中大付 17（10—3、7—5）8 日川

▽女子・北関東大会1回戦
麻生（茨城）9—8 川口北（埼玉）
栃木女（栃木）7—1 吉井（群馬）

▽同決勝
栃木女 17（10—3、7—7）10 麻生

▽同・南関東大会1回戦
藤村女（東京）16—2 県商工（神奈川）
昭和学院（千葉）8—7 藤村女（東京）

▽同決勝
昭和学院 10（5—4、5—4）8 栃木女

東海

（2月17・18日静岡県常葉体育館）

▼男子リーグ
四日市工（三重）11（4—3、7—6）9 土肥（静岡）

土肥 16（9 7－9 5）14 県岐阜商（岐阜）
県岐阜商 15（9 6－6 5）11 四日市工
（順位）①県岐阜商②四日市工③土肥（得失点差による）

▼女子リーグ
暁（三重） 8（3 5－1 2）3 静岡城北（静岡）
富田女（岐阜） 11（5 6－5 4）9 静岡城北
暁 6（3 3－4 1）5 富田女
（順位）①暁②富田女③静岡城北

近畿

（2月11、12日・明石高体育館）

▼男子1回戦（2試合）
八幡（滋賀） 31（17 14－0 3）3 洛星（京都）
御坊商工（和歌山） 15（9 6－2 5）7 生駒（奈良）

▽同準決勝
此花学院（大阪） 21（8 13－7 7）14 八幡
御坊商工 12（2 0：3 7－0 0：7 3）10 明石（兵庫）

▽同決勝
御坊商工 16（7 9－9 6）15 此花学院

▼女子1回戦（2試合）
夙川学院（兵庫） 14（8 6－4 2）6 春日丘（大阪）
守山女（滋賀） 29（14 15－3 2）5 郡山（奈良）

▽同準決勝
夙川学院 17（7 10－1 0）1 新宮（和歌山）
守山女 17（5 12－1 3）4 明徳（京都）

▽同決勝
夙川学院 18（9 9－5 4）9 守山女

中国

（1月27、28日・岩国工高体育館）

▼男子1回戦（1試合）
下松（山口） 29（16 13－8 5）13 境港工（鳥取）

▽同準決勝
水島工（岡山） 19（11 8－5 13）18 下松
修道（広島） 26（12 14－4 5）9 松江南（島根）

▽同決勝
修道 24（13 11－5 4）9 水島工

▼女子1回戦（1試合）
山陽女（広島） 20（11 9－2 1）3 倉吉西（鳥取）

▽同準決勝
山陽女 18（8 10－0 2）2 松江市女（島根）
徳山（山口） 21（14 7－1 1）2 倉敷天城（岡山）

▽同決勝
徳山 8（5 3－2 3）5 山陽女

四国

（2月18日・徳島県池田高体育館）

▼男子準決勝（＝1回戦）
新居浜工（愛媛） 29（11 18－5 1）6 幡多農（高知）
池田（徳島） 15（6 9－3 8）11 高松工芸（香川）

▽同決勝
新居浜工 20（11 9－6 3）9 池田

▼女子準決勝（＝1回戦）
新居浜商（愛媛） 13（5 8－0 0）0 高松東（高知）
池田（徳島） 8（4 4－3 4）7 高松南（香川）

▽同決勝
新居浜商 13（3 10－0 1）1 池田

九州

（2月10、11日・山鹿市鹿共体育館）

▼男子1回戦（3試合）
熊本マリスト学園（熊本） 19（10 9－4 6）10 小林工（宮崎）
久工大付（福岡） 24（12 12－8 3）11 財部（鹿児島）
興南（沖縄） 17（10 7－10 6）16 佐世保西（長崎）

▽同準決勝
熊本マリスト学園 24（12 12－12 7）19 大分東（大分）
久工大付 30（19 11－9 7）16 興南

▽同決勝
久工大付 19（3 1：7 8－1 1：8 7）17 熊本マリスト学園

▼女子準々決勝
熊本市立（熊本） 13（7 6－4 2）6 神埼農（佐賀）
小林商（宮崎） 11（7 4－5 4）9 浦添商（沖縄）
国分実業（鹿児島） 11（6 5－4 5）9 大分東（大分）
筑紫女学園（福岡） 9（5 4－2 3）5 島原農（長崎）

▽同準決勝
熊本市立 9（3 6－4 2）6 小林商
筑紫女学園 9（1 2：1 5－1 0：2 4）7 国分実業

▽同決勝
熊本市立 12（7 5－3 3）6 筑紫女学園

愛知県（開催地）

（1～2月・名古屋市）

▼男子準々決勝
中京 31－9 刈谷工
一宮 22－13 名北
名南工 26－7 豊橋工
春日井 25－11 豊明

▽同準決勝
中京 37－7 一宮
春日井 22－15 名南工

▽同決勝
中京 24（11 13－8 11）19 春日井

▼女子準々決勝
名短付 17－3 西尾
愛知商 13－10 蒲郡東
岩津 12－10 西陵商
市邨 11－4 国府

▽同準決勝
名短付 12－7 愛知商
市邨 16－9 岩津

▽同決勝
名短付 8（1 2：3 2－1 0：2 3）6 市邨

各地の記録

一般男子は琉球大大勝

▼第9回沖縄県選抜大会（2月・那覇工高）

▽中学男子準決勝
神森 10—6 コザ
越来 12—9 仲西
▽同決勝
神森 17（13—3、4—4）7 越来
▽同女子準決勝
石田 6—4 コザ
浦添 8—6 神森
▽同決勝
石田 9（5—2、4—2）4 浦添
▽高校男子準決勝
興南 20—15 首里
浦添 22—9 前原
▽同決勝
浦添 15（9—6、6—5）11 興南
▽同女子準決勝
浦添商 10—5 浦添
興南 10—9 前原
▽同決勝
興南 10（6—1、4—7）8 浦添商
▽一般男子準決勝
琉球大 10—9 興南OB
沖縄教員 21—15 沖縄国際大
▽同決勝
琉球大 24（13—8、11—3）11 沖縄教員

新潟KHC、教員制す

▼第17回新潟日報杯選手権（2月・柏崎工高体育館）

▽男子準々決勝
新潟教員 21—13 柏崎高B
柏崎工高 14—9 悠久ク
長岡工専 12—10 柏崎高
新潟KHC 26—12 潟東中B
▽同準決勝
新潟教員 21—17 柏崎工高
新潟KHC 15—7 長岡工専
▽同決勝
新潟KHC 19（1—0、2—1：8—5、8—11）17 新潟教員
▽同女子決勝（1試合）
能生水産高 18（12—1、6—1）2 長岡大手高

日大高女子、有磯に惜敗

▼第18回富山県室内選手権（2月・富山市体育館）

▽一般男子1回戦（2試合）
富山教員 26—18 富山大
八尾ク 19—14 想球会
▽同準決勝
氷見ク 14—12 富山教員
射水ク 21—14 八尾ク
▽同決勝
氷見ク 20（11—8、9—6）14 射水ク
▽同女子決勝
想球会 棄権 桜球会
▽高校男子準々決勝
氷見 37—3 富山商
新湊 11—6 富山
高岡商 22—12 富山南
日大高 棄権 八尾
▽同準決勝
氷見 25—7 新湊
日大高 13—9 高岡商
▽同決勝
氷見 18（9—6、9—3）9 日大高
▽同女子準々決勝
有磯 16—1 小杉
女短 9—6 高岡女
日大高 15—10 高岡南
清光 11—10 富山女
▽同準決勝
有磯 14—7 女短
日大高 26—9 清光
▽同決勝
有磯 9（1—0、1—1：2—2、5—5）8 日大高

23クラブの頂点に愛知教員

▼第27回愛知クラブ対抗リーグ（3月・名古屋市体育館）＝男子のみ

▽1部
桜丘会 17—6 名南ク
中京ク 15—12 愛教ク
愛知教員 19—18 大同ク
桜丘会 15—8 愛教ク
大同ク 18—13 中京ク
愛知教員 21—9 愛教ク
愛知教員 20—16 桜丘会
中京ク 17—15 名南ク
愛教ク 16—6 大同ク
桜丘会 20—14 大同ク
愛知教員 17—12 中京ク
愛教ク 13—10 名南ク
大同ク 18—10 名南ク
桜丘会 22—11 中京ク
愛知教員 15—11 名南ク

【順位】①愛知教員5戦全勝②桜丘会4勝1敗③大同ク・愛教ク・中京ク2勝3敗⑥名南ク5敗

【2部順位】①桜田ク3勝2分②南山ク3勝2敗③大江ク2勝1分2敗④上野ク⑤市工ク⑥春日井ク

【3部順位】①東杏会②柊丘会③東山ク④豊通ク⑤東中ク⑥愛商ク

【4部順位】①ウイナー②若宮ク③大同研究ク④横須賀ク⑤北斗ク

▼金沢市選手権（3月・大乗寺山頂アリーナ）＝男子のみ

▽準々決勝
金沢市役所 19—6 星稜高
県立工高 13—7 レインボウ
星稜ク 10—6 県工ク
金沢あすなろク 14—8 泉丘高
▽準決勝
金沢市役所 20—7 県立工高
金沢あすなろク 18—8 星稜ク
▽決勝
金沢市役所 28（16—8、12—7）15 金沢あすなろク

興奮再現。

持ち運んで楽しむか

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- FM／AM2バンドラジオつき
- （クロム／ノーマル）テープセレクター採用
- フルオートストップ
- 外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき



ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システム パディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）



- 専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。
★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉
HITACHI CASSETTE RECORDER
HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一七二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五四年二月二十五日印刷 昭和五四年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円（年間購読料三千三百円）